

現場説明書

工事名 国立青少年教育振興機構
国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事

国立青少年教育振興機構財務部施設管理課			
課長	課長補佐	施設管理課	担当

- 1 工事名 国立青少年教育振興機構
国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
- 2 工事場所 東京都渋谷区代々木神園町3-1 (国立オリンピック記念青少年総合センター構内)
- 3 完成期限 令和5年3月31日 (金曜日)

4 一般事項

現場説明書の適用方法

- (1) ・印で始まる事項については、○印を付した事項のみ適用する。
- (2) 文中及び表中の各欄に数字、文字、記号等を記入する事項については記入してある事項のみ適用する。
- (3) ——印又は×印で抹消した事項は全て適用しない。

5 施工に関する事項

(1) 工事用地

範囲は監督職員と協議の上決定し、使用にあたっては「工事用地使用許可願」を監督職員に提出して、発注者等の承諾を得ること。ただし、工事用地の借料は無償とする。

(2) 仮設物の設置等

① 仮設建物等

仮設建物等を設置するときは、「仮設物設置許可願」を監督職員に提出して発注者等の承諾を得ること。

② 障害物の撤去又は移設

障害物の撤去又は移設をするときは、監督職員の指示により行うこと。

③ 仮囲い等

仮囲い等を設けるときは、別図の位置に、図示の種類によること。

④ 監督職員事務所

・設ける (号) ○設けない

号	1	2	3	4	5	6
規模 (m ²)	10内外	20内外	35内外	65内外	100内外	

⑤ 仮設物の維持管理等

仮設物は、施工、監督及び検査に便利かつ安全な材料構造でかつ関係法規に準拠して設置するものとし、常に維持保全に注意すること。

⑥ 墜落制止用器具の着用について

労働安全衛生法施行令第13条第3項第28号における墜落制止用器具の着用は、「墜落制止用器具の規格」(平成31年1月25日厚生労働省告示第11号)による墜落制止用器具(フルハーネス型墜落制止用器具、胴ベルト型墜落制止用器具及びランヤード等)とする。

⑦ その他

- a) 工事期間中、近隣住民等第三者には、十分注意を払うこと。
- b) 既存施設や道路等を汚損もしくは破損したときは、速やかに監督職員と協議の上原状に復するものとする。
- c) 撤去工事における騒音、塵埃等には十分注意し、必要に応じて養生等の処置を講ずること。
- d) 工事車両等の運行にあたっては、安全対策について、監督職員と十分協議の上事故防止に努める。

(3) 工事用電力等

- ① 工事用電力、電話、給水、排水等は受注者において手続きの上設置し、その費用及び使用料は受注者の負担とする。
- ② 工事用電力
 - ・ 電力会社と協議の上引き込む
 - 構内より分岐できる
- ③ 工事用電話
 - ・ 構外より引込む。
 - 携帯電話にて対応する
- ④ 工事用給水
 - ・ 構外より引込む。 ○ 構内より分岐できる。 ・ さく井する。 ・
- ⑤ 工事用電力、電話、給水の引き込み位置は別図により、排水は別図又は監督職員の指示による。
- ⑥ 工事に際して、学内の上水道、下水道施設を使用するときは「上(下)水道使用願」を監督職員に提出して、発注者等の承諾を得ること。
- ⑦ その他
工事用電力、工事用給水を構内より分岐する場合は、受注者の負担において電力量計、量水器を設置し、料金は国立オリンピック記念青少年総合センターへ納入する。

(4) 工事写真等

① 工事写真等

工事写真等は、文部科学省が定めた「工事写真撮影要領」により撮影し、次表のものを提出すること。

区 分	大 き さ	種 類	組
敷地状況写真	サービス判	カラー	1組
工 事 写 真	サービス判	カ ラ ー	1 組
完 成 写 真	サービス判	カラー	1組

~~※ 完成写真はファイルし、表紙に工事名、工期を記入し、撮影方向等を明示した配置図、平面図を添付すること。~~

② その他

質疑回答書、現場説明書、特記仕様書及び設計図（発注図）のA3版2つ折り製本を3部提出すること。

(5) その他

鍵は、各組（一組は同一鍵3本）毎に鍵札（アクリル製）を付け、キープラン及び鍵リストを添えて鍵箱（鍵掛け付き）に納めて提出すること。

6 契約に関する事項

(1) 独立行政法人国立青少年教育振興機構工事請負契約基準（以下、「基準」という。）の運用

① 基準第3の規定による、

工事費内訳明細書 { ○ 提出する。
・ 提出しない。

工 程 表

- 提出する。
- ・ 提出しない。

- ② ~~基準第25第1項の規定により請負代金額の変更を請求する場合は、発注者又は受注者から請求のあった日から起算して、残工事の工期が2月以上ある場合とする。~~
- ③ ~~基準第25第2項の残工事代金額を算出する根拠となる残工事量を確認する場合において、工事の工程が受注者の責により遅延していると認められる場合は遅延していると認められる工事量を残工事量に含めないものとする。~~
- ④ 基準第29第4項にいう「請負代金額」とは、損害を負担する時点における請負代金額をいう。
- ⑤ 天災、その他不可抗力による1回の損害合計額が前項にいう請負代金額の1000分の5の額（この額が20万円を越えるときは20万円）に満たないものは損害合計額とみなさないものとする。
- (2) 契約の保証について
- 落札者は、工事請負契約書案の提出とともに、次の①から⑦のいずれかの書類を提出しなければならない。
- ① 契約保証金として納付するものが、現金の場合は、保管金領収証書及び契約保証金納付書
- ア 保管金領収証書は、三菱UFJ銀行渋谷支店 に契約保証金の金額に相当する金額の現金を払い込んで交付を受けること。
- イ 保管金領収証書の宛名の欄には、独立行政法人国立青少年教育振興機構 出納責任者 山川 寿典と記載するように申し込むこと。
- ウ 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- エ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、契約保証金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- オ 受注者は、工事完成後、請負代金額の支払請求書の提出とともに保管金払渡請求書を提出すること。
- ② 契約保証金の納付に代わる担保が、国債（国債に関する法律の規定により登録された国債を除く）、政府の保証のある債券、銀行、株式会社商工組合中央金庫、農林中央金庫又は全国を地区とする信用金庫連合会の発行する債券、日本国有鉄道改革法（昭和61年法律第87号）附則第2項の規定による廃止前の日本国有鉄道法（昭和23年法律第256号）第1条の規定により設立された日本国有鉄道及び日本電信電話株式会社等に関する法律（昭和59年法律第85号）附則第4条第1項の規定による解散前の日本電信電話公社が発行した債券で政府の保証のある債券以外のもの、地方債及び独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める社債の場合は、政府保管有価証券払込済通知書及び契約保証金納付書
- ア 政府保管有価証券払込済通知書は、三菱UFJ銀行渋谷支店 に契約保証金の金額に相当する金額の当該有価証券を払い込んで、交付を受けること。
- イ 政府保管有価証券払込済通知書の宛名の欄には、独立行政法人国立青少年教育振興機構 出納責任者 山川 寿典と記載するように申し込むこと。
- ウ 請負金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- エ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、保管有価証券は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

- オ 受注者は、工事完成後、請負代金額の支払請求書の提出とともに政府保管有価証券払渡請求書を提出すること。
- ③ 契約保証金の納付に代わる担保が、銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関が振り出し又は支払を保証した小切手、銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関が引き受け又は保証若しくは裏書をした手形である場合は、当該有価証券及び契約保証金納付書
- ア 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- イ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、当該有価証券は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- ウ 受注者は、工事完成後、請負代金額の支払請求書の提出とともに政府保管有価証券払渡請求書を提出すること。
- ④ 契約保証金の納付に代わる担保が、銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関に対する定期預金債権の場合は、当該債権に係る証書及び当該債権に係る債務者である銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関の承諾を証する確定日付のある書面及び契約保証金納付書
- ア 当該債権に質権を設定し提出すること。
- イ 請負代金額の変更により契約保証金の金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。
- ウ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、当該債権は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が契約保証金の金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。
- エ 受注者は、工事完成後、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**から当該債権に係る証書及び当該債権に係る債務者である銀行又は独立行政法人国立青少年教育振興機構が確実と認める金融機関の承諾を証する確定日付のある書面の返還を受けるものとする。
- ⑤ 債務不履行による損害金の支払を保証する金融機関等の保証に係る保証書及び契約保証金納付書
- ア 債務不履行による損害金の支払の保証ができる者は、出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律（昭和29年法律第195号）第3条に規定する金融機関である銀行、信託会社、保険会社、信用金庫、信用金庫連合会、労働金庫、労働金庫連合会、農林中央金庫、株式会社商工組合中央金庫、株式会社日本政策投資銀行並びに信用協同組合及び農業協同組合、水産業協同組合その他の貯金の受入れを行う組合（以下「銀行等」という。）又は公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社（以下「金融機関等」と総称する。）とする。
- イ 保証書の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**と記載するように申し込むこと。
- ウ 保証債務の内容は、工事請負契約書に基づく債務の不履行による損害金の支払いであること。
- エ 保証書上の保証に係る工事の工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。
- オ 保証金額は、契約保証金の金額以上とすること。
- カ 保証期間は、工期を含むものとする。
- キ 保証債務履行請求の有効期間は、保証期間経過後6カ月以上確保されるものとする。
- ク 請負代金額の変更又は工期の変更等により保証金額又は保証期間を変更する場合等の

取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。

ケ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、金融機関等から支払われた保証金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

コ 受注者は、銀行等が保証した場合にあっては、工事完成后、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**から保証書（変更契約書を含む。）の返還を受け、銀行等に返還すること。

⑥ 債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約に係る証券

ア 履行保証保険とは、保険会社が債務不履行時に保険金を支払うことを約する保険である。

イ 履行保証保険は、定額てん補方式を申し込むこと。

ウ 保険証券の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**と記載するように申し込むこと。

エ 証券上の契約の内容としての工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。

オ 保険金額は、請負代金額の10分の1の金額以上とする。

カ 保険期間は、工期を含むものとする。

キ 請負代金額の変更により保険金額を変更する場合の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。

ク 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、保険会社から支払われた保険金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が保険金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

⑦ 債務の履行を保証する公共工事履行保証証券による保証に係る証券

ア 公共工事履行保証証券とは、保険会社が保証金額を限度として債務の履行を保証する保証である。

イ 公共工事履行保証証券の宛名の欄には、**独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長 古川 和**と記載するように申し込むこと。

ウ 証券上の主契約の内容としての工事名の欄には、工事請負契約書に記載される工事名が記載されるように申し込むこと。

エ 保証金額は、請負代金額の10分の1の金額以上とする。

オ 保証期間は、工期を含むものとする。

カ 請負代金額の変更又は工期の変更等により保証金額又は保証期間を変更する場合等の取扱いについては、独立行政法人国立青少年教育振興機構の指示に従うこと。

キ 受注者の責に帰すべき事由により契約が解除されたとき、保険会社から支払われた保証金は、独立行政法人国立青少年教育振興機構契約事務取扱規則により独立行政法人国立青少年教育振興機構に帰属する。なお、違約金の金額が保証金額を超過している場合は、別途、超過分を徴収する。

(3) 工事請負代金債権の債権譲渡

この工事の受注者は、下請セーフティーネット債務保証事業又は地域建築業経営強化融資制度のいずれかに係る融資を受けることを目的として、工事請負代金債権の債権譲渡を申し出ることができるものとする。

(4) 下請契約の締結

受注者は、下請負人を使用する場合は、「建設工事標準下請契約約款」（昭和52年4月26日中央建設業審議会決定）に準拠した適切な下請契約を締結すること。また、「建設業法令遵守ガイドライン（第5版）-元請負人と下請負人の関係に係る留意点-」（平成29年3月国土交通省土地・建設産業局建設業課）により適切な取引をすること。

(5) 建設産業における生産システム合理化指針の遵守等について

工事の適正かつ円滑な施工を確保するため、「建設産業における生産システム合理化指針について」（平成3年2月5日付け建設省経構発第2号の3建設省建設経済局長通知）において明確にされている総合・専門工事業者の役割に応じた責任を的確に果たすとともに、適正な契約の締結、適正な施工体制の確立、建設労働者の雇用条件等の改善等に努めること。また、下請代金の支払については発注者から受取った前払金の下請建設業者に対する均てん、下請代金における現金比率の改善、手形期間の短縮等その適正化について特段の配慮をすること。

(6) 監督職員の権限

基準第9第2項第1号から第3号に示す範囲とする。

(7) 請負代金の支払

請負代金（前払金及び~~中間前払金~~を含む）は、受注者からの適法な支払請求書に応じて独立行政法人国立青少年教育振興機構財務部財務課から2回以内に支払うものとする。

(8) 請負代金の前払い

公共工事の前払金保証事業会社と保険契約を締結し、当該保証証書を添えて工事請負代金額の「10分の4」以内の額の前払金を請求することが出来る。~~また、前払金の支払を受けした後、公共工事の前払金保証事業会社と保険契約を締結し、当該保証証書を添えて工事請負代金額の「10分の2」以内の額の中間前払金を請求することができる。~~

(9) 工事関係保険の締結

この工事の受注者は、速やかに、次の付保条件により、組立保険契約（共済その他これに準じる機能を有するものを含む。）締結すること。

① 保険対象

工事請負契約の対象となっている工事全体とすること。

② 保険契約者

受注者とすること。

③ 被保険者

発注者並びに受注者及びそのすべての下請負人（リース仮設材を使用する場合には、リース業者を含む。）とすること。

④ 保険金額

請負代金額と同額とすること。ただし、支給材料又は貸与品の価額が算入されていないときはその新調達価額を加算し、保険の目的に含まれない工事の費用（解体撤去工事費、用地費、補償費等をいう。）が算入されているときはその金額を控除すること。

⑤ 保険金支払額の控除額（免責額）

請負代金額の1000分の5の額（この額が20万円を超えるときは20万円）未満とすること。

⑥ 保険金請求者

受注者とすること。

⑦ 保険期間

工事着手の日から工事目的物の完成引渡しの日までの期間とすること。

⑧ 特約条項

ア 同一発注者による同一工事場内における分離発注工事の隣接工区受注者相互間の求償権不行使特約を付帯すること。

~~イ 水災危険担保特約を付帯すること。~~

ウ 次の付保条件により、損害賠償責任担保特約を付帯（請負業者賠償責任保険その他これに準じる機能を有するものを付保することを含む。）すること。

（ア）対人賠償保険金額は、1名につき1億円以上かつ1事故につき10億円以上とすること。

（イ）対物賠償保険金額は、1事故につき1億円以上とすること。

（ウ）発注者受注者相互間の交差責任担保特約を付帯すること。

（エ）分離発注工事の隣接工区に対する賠償責任担保特約を付帯すること。

⑨ その他

ア ここで示す付保条件は、工事関係保険として最低限必要と思われる付保条件であり、受注者が受注者の判断でこれ以上の付保条件で工事関係保険を付保することを妨げるものでない。ただし、当該付保条件についても発注者が指示したものとみなす。

~~イ 建物の建築工事の受注者は、分離発注される当該建物の付帯設備工事の受注者と協議の上、建築工事の受注者が保険契約者となり、付帯設備工事の受注者を被保険者に加え、一括して建設工事保険契約を締結することも可能である。~~

ウ 受注者が工事関係保険契約を締結したときは、遅滞なく、その保険証券を発注者に提示すること。ただし、総括契約方式による付保の場合は、保険会社の引受証明を発注者に提示すること。

エ 工事関係保険契約締結後に設計変更等により工事期間又は請負代金額に変更を生じた場合などには、速やかに、付保条件について変更の手続をとること。

7 暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置について

- (1) 独立行政法人国立青少年教育振興機構が発注する建設工事（以下「発注工事」という）において、暴力団員、暴力団員準構成員又は暴力団関係業者（以下「暴力団員等」という）による不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合には、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行うこと。
- (2) (1)により警察に通報を行うとともに、捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を記載した書面により発注者に報告すること。
- (3) 発注工事において、暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合には、発注者と協議を行うこと。

8 その他

(1) 工事実績情報サービス（CORINS）への登録

この工事の受注者は、工事契約内容及び施工内容について契約締結後10日以内に、登録内容に変更があったときは登録内容に変更が生じた日から10日以内に、完成引渡しについて完成引渡し後10日以内にそれぞれの情報を財団法人日本建設情報総合センターの工事実績情報サービス（CORINS）への登録すること。

(2) 公共事業労務費調査への協力

毎年定期的実施される公共事業労務費調査への協力を依頼することがあるので、労働基準法第108条による賃金台帳を整備しておくこと。

なお、賃金台帳の整備にあたっては、全国建設業協会刊「建設現場の賃金管理の手引き」によること。

(3) 建設業退職金共済制度について

- ① 建設業退職金共済組合に加入するとともに、その建設業退職金共済制度の対象となる労働者について証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に証紙を貼付すること。
- ② 「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。
- ③ 掛金収納書（発注者用）を工事請負契約締結後原則1ヶ月以内（電子申請方式による場合にあっては、工事請負契約締結後原則40日以内）に、発注者に提出すること。

~~(4) 工事成績評定について~~

~~この工事は、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」（平成12年法律第127号）及び「公共工事の入札及び契約の適正化を図るための措置に関する指針」（令和元年10月18日閣議決定）に基づき、文部科学省が定めた工事成績評定要領（平成20年1月17日付け19文科施第370号）による工事成績評定の対象工事である。~~

~~(5) ワンデーレスポンスの実施について~~

~~本工事はワンデーレスポンスの実施対象工事である。~~

- ④ ~~ワンデーレスポンスとは、発注者からの質問、協議に対して、発注者は、基本的に「その日のうちに」回答するよう対応することである。なお、即日回答が困難な場合に、いつま~~

~~でに回答が必要なのかを受注者と協議の上、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうちに」することを含むものとする。~~

~~② 受注者は、実施工程表の提出にあたって、作業間の関連把握や工事の進捗状況等を把握できる工程管理方法について、監督職員と協議を行うこと。~~

~~③ 受注者は、工事施工中において、問題が発生した場合及び計画工程と実施工程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに文書にて監督職員へ報告すること。~~

(6) 主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間について

① 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員と協議の上定める。

② 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続き、後片付け等のみが残っている期間については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、受注者に通知した日とする。

(7) 現場代理人の工事現場における常駐の緩和について

① 基準第10第3項に規定する現場代理人の工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がないとは、以下のものとする。

ア 請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間。）。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、監督職員と協議の上、定める。

イ 工事完成後、検査が終了し（発注者の都合により検査が遅延した場合を除く。）、事務手続き、後片付け等のみが残っている期間。なお、検査が終了した日は、発注者が工事の完成を確認した旨、発注者に通知した日とする。

ウ 工場製作を含む工事であって、工場製作のみが行われている期間。

エ 工事現場において作業等が行われていない期間。

② 基準第10第3項に規定する発注者との連絡体制が確保されるとは、発注者又は監督職員と携帯電話等で常に連絡が取られること、かつ、発注者又は監督職員が求めたときは、工事現場に速やかに向かう等の対応が取られることとする。

③ その他請負契約の締結後、監督職員と協議の上、現場代理人の工事現場における常駐を要しない期間を定める。

(8) 建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者及び監理技術者補佐の工事における取扱いについて

本工事は、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特例監理技術者」という。）の配置を認めない。

~~④ 本工事において、建設業法第26条第3項ただし書の規定の適用を受ける監理技術者（以下、「特定監理技術者」という。）の配置を行う場合は以下のア～ウの要件を全て満たさなければならない。~~

~~ア 建設業法第26条第3項ただし書による監理技術者の職務を補佐する者（以下、「監理技術者補佐」という。）を専任で配置すること。~~

~~イ 監理技術者補佐は、一級施工管理技士補又は一級施工管理技士等の国家資格者、学歴や実務経験により監理技術者の資格を有する者であること。なお、監理技術者補佐の建設業法第27条の規定に基づく技術検定品目は、特例監理技術者に求める技術検定種目と同じであること。~~

~~ウ 監理技術者補佐は入札参加者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあること。~~

~~エ 同一の特定監理技術者が配置できる工事の数は、本工事を含め同時に2件までとする。（ただし、同一あるいは別々の発注者が、同一の建設業者と締結する契約工期の重複する複数の請負契約に係る工事であって、かつ、それぞれの工事の対象となる工作物等に一体性が認められるもの（当初の請負契約以外の請負契約が随意契約により締結される~~

~~場合に限る)については、これら複数の工事を一の工事とみなす)~~

- ~~オ 特例監理技術者が兼務できる工事は〇〇地域内(例:〇〇市、〇〇市及び〇〇町)の工事でなければならない。~~
- ~~カ 特例監理技術者は、施工における主要な会議への参加、現場の巡回及び主要な工程の立会等の職務を適正に遂行しなければならない。~~
- ~~キ 特例監理技術者と監理技術者補佐との間で常に連絡が取れる体制であること。~~
- ~~ク 監理技術者補佐が担う業務等について、明らかにすること。~~
- ② 本工事の監理技術者が特例監理技術者として兼務する事となる場合、前項ア～クの事項について確認できる書類を提出すること。
- ③ 本工事において、特例監理技術者及び監理技術者補佐の配置を行う場合又は配置を要さなくなった場合は適切にコリンズ(CORINS)への登録を行うこと。

(9) 特別重点調査を受けた者との契約について

「低入札価格調査対象工事に係る特別重点調査の試行について」(平成21年3月31日大臣官房文教施設企画部長通知)に基づく特別重点調査を受けた者との契約については、その契約の保証については請負代金の10分の3以上とし、前払金の割合については、請負代金額の10分の2以内とする。ただし、工事が進捗した場合の中間前払金及び部分払の請求を妨げるものではない。

(10) 引渡し後点検について

受注者は、完成引渡し後1年経過を目途に、施設の不具合の有無等について点検を行うものとする。

(11) 設計図書の取扱い

本工事の設計図書の取扱いは以下によるものとする。

- ① 図書の取扱い、保管は、善良なる管理者の注意義務を負うことに同意すること。
- ② 目的以外の使用は禁止とすること。
- ③ 図書を複写する場合、その部数は必要最低限とし、複写した図書は用済み後責任を持って確実に処分すること。

(12) デジタル工事写真の小黑板情報電子化について

デジタル工事写真の小黑板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における小黑板の記載情報の電子的記入及び工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

本工事で受注者がデジタル工事写真の小黑板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督職員の承諾を得た上でデジタル工事写真の小黑板情報電子化対象工事(以下、「対象工事」という。)とすることができる。対象工事では、以下の①から③の全てを実施することとする。

なお、本項に規定していない事項は「工事写真撮影要領(文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官)」に準ずる。

① 必要な機器・ソフトウェア等の導入

受注者は、デジタル工事写真の小黑板情報電子化の導入に必要な機器・ソフトウェア等(以下、「使用機器」という。)については、「工事写真撮影要領(文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官)」の「2.1.2 形状、寸法、仕様等の確認方法2.」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認機能(改ざん検知機能)を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認機能(改ざん検知機能)は、「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」(URL

「<https://www.cryptrec.go.jp/list.html>」)に記載している技術を使用していること。また、受注者は監督職員に対し、工事着手前に、対象工事での使用機器について提示するものとする。

② デジタル工事写真における小黑板情報の電子的記入

受注者は、使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、「工事写真

撮影要領（文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部参事官）」の「2.1.2形状、寸法、仕様等の確認方法 2.」による。

なお、対象工事において、「小黑板情報電子化」と「小黑板を被写体に添えての撮影（従来の方法）」を併用することは差し支えない（例えば、高温多湿、粉じん等の現場条件の影響により、使用機器の利用が困難な工種が想定される）。

③ 小黑板情報の電子的記入を行った写真の納品

受注者は、②に示す小黑板情報の電子的記入を行った写真（以下、「小黑板情報電子化写真」という。）を、工事完成時に監督職員へ納品するものとする。なお納品時に、受注者はURL (http://www.cals.jacic.or.jp/CIM/sharing/index_digital.html) のチェックシステム（信憑性チェックツール）又はチェックシステム（信憑性チェックツール）を搭載した写真管理ソフトウェアや工事写真ビューアソフトを用いて、小黑板情報電子化写真の信憑性確認を行い、その結果を併せて監督職員へ提出するものとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督職員が確認することがある。

I 工事概要

東京都渋谷区代々木神園町3番1号
（国立オリンピック記念青少年総合センター構内）

1. 工事場所
2. 完成期限 令和 5年 3月 31日（金曜日）

3. 建物概要

建物名称	カルチャー棟	スポーツ棟		
工種	模様替	模様替		
構造	RC一部S及びSRC造	SRC一部S造		
階数	地下1階地上4階PHI階	地下1階地上3階		
	建築基準法による	建築面積(㎡)	6,812.25	5,127.11
	延べ面積(㎡)	17,189.89	9,371.54	
消防法施行令別表第一の区分	(15)	(15)		
改修面積 (㎡)	図示	図示		
備考	基準法上の用途：研修所	基準法上の用途：研修所		

4. 工事種目（●印の付いたものが対象工事種目）

工事種目	建物別及び屋外		
	カルチャー棟	スポーツ棟	
●電灯設備	一式		
○動力設備			
○電気自動車用充電設備			
○電熱設備			
○雷保護設備			
●受変電設備	一式	一式	
○電力貯蔵設備			
●発電設備	一式		
○構内情報通信網設備			
○構内交換設備			
○情報表示設備			
○映像・音響設備			
●拡声設備	一式		
○誘導支援設備			
○テレビ共同受信設備			
○監視カメラ設備			
○駐車場管制設備			
○防犯・入退室管理設備			
●火災報知設備	一式		
○中央監視制御設備			
○構内配電線路			
○構内通信線路			
●発生材処理	一式	一式	

5. 指定部分 ●無 ○有 対象部分（ ）
指定部分工期 年 月 日
6. 概成工期 ●無 ○有 令和 年 月 日（ 曜日）
[第1編1.1.2]、[第1編1.1.2]

II 工事仕様

1. 共通仕様
- (1) 文部科学省発注工事請負等契約規則（文部科学省訓令第二十二号）別記第1号の工事請負契約基準、現場説明書、図面 26 枚及び本特記仕様書 2 枚によるほか、●印の付いたものを適用する。
●公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)(以下「標準仕様書」という。)
●公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
●公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和4年版)(以下「標準図」という。)
●文部科学省電気設備工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)
●文部科学省電気設備工事標準図(特記基準)(令和4年版)(以下「文科標準図」という。)
●工事写真撮影要領(令和元年7月)
- (2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、機械設備工事の特記仕様書は（ ）図、建築工事の特記仕様書は（ ）図による。

2. 特記仕様

- (1) 本特記仕様書の表記
- 項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。
 - 項目に記載の（第 編 . . . ）内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
 - 項目に記載の〔第 編 . . . 〕内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
 - 項目に記載の〈第 編 . . . 〉内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

項目	特記事項	
○適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○風圧力 風速 (Vo= m/s) 地表面粗度区分 (○ I ○ II ○ III ○ IV) ○積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表 ()	
●電気保安技術者 (第1編1.3.2) [第1編1.3.2]	この工事現場に下記のいずれかの電気保安技術者を選任する。	電気保安技術者
	項目名	
	1. 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	●
	2. 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	●
	3. 第1種電気工事士の資格を有する者	●
	4. 高等学校又はこれと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	○
	5. 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	●
	6. 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	●
	7. 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	●
	8. 第2種電気工事士の資格を有する者	●
	9. 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学(実験を含む)に関する科目を修めて卒業した者	○
	工食用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。	

○施工条件 (第1編1.3.3) [第1編1.3.3]

- 電源周波数 ● 50Hz ○ 60Hz
- 発生材の処理等 (第1編1.3.9) [第1編1.9.1]
- (1) 引渡しを要するもの
1) 品名 _____
2) 引渡し先 _____
3) 集積場所 _____
4) 集積方法 _____
- (2) 特別管理産業廃棄物
1) 品名 _____
2) 処理方法 _____
- (3) 現場において再利用するもの
1) 品名 _____
2) 使用場所 _____
- (4) 再生資源化するもの
1) 品名 _____
- (5) その他の発生材
1) 品名 _____
2) 処理方法 _____

●環境への配慮 (第1編1.4.1) [第1編1.4.1]

(1) 本工事において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和4年2月閣議決定）」に定める特定調達品目「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。

- (2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性を除外）が添加されていない材料を使用する。

- 発生残土の処理 (第1編2.2.1) [第1編2.3.1]
- 金属腐の塗装及び仕上げ (第1編2.7.1) [第1編2.8.1]

項目	特記事項		
●機材の品質等 (第1編1.4.2) [第1編1.4.2]	④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。		
	(1) 本工事に使用する機材等は、設計図面に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、次の事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、次の事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ○ 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ○ 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ○ 安定的な供給が可能であること。 ○ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ○ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ○ 販売、保守等の営業体制を整えていること。		
	機材名		

○機材の検査等
機材の検査に伴う試験 (第1編1.4.4~5) [第1編1.4.5~6]

機材名	検査	試験	摘要

●施工調査 (第1編1.5.1~3) [第1編1.5.1~3]

事前調査	(●本工事)	(○別途)
調査項目	(●) 既存資料調査	(●) 本工事に必要な現地調査
調査範囲	(○) 図示	(○)
調査方法	(○) 図示	(○)

○施工の検査等
施工の検査に伴う試験施工の立会い等 (第1編1.5.3~5) [第1編1.6.4~6]

施工部分	検査	立会	試験	摘要

●完成時の提出図書 (第1編1.7.1~3) [第1編1.11.1~3]

名称	体裁等
● 完成図	CADデータ(電子納品)及び電子データ
○ "	原図 ○A1版(部) ○A3版(部)
● "	複写図 製本(A4版厚紙表紙金文字入り)(2部)
● "	複写図 複製本 ○A1版(部) ●A3版(2部)
● 保全に関する資料	●紙媒体(2部) ○電子データ
● 工事写真	●紙媒体(1部) ●電子データ

※紙媒体はA4版ファイル綴じ、電子データはPDF形式とする。
電子納品は次による。
(1) 貸与する設計図CADデータの著作権者： _____ファイル形式： _____
貸与条件：貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図作成のため以外に使用しないこと。
(2) 電子納品の対象は上記によるほか、監督職員と受注者で協議を行う。
(3) 電子成果品は、提出前にウイルス対策を実施したうえで監督職員に提出する。
(4) 提出方法及びファイル形式は以下による。
CADデータ：JWW、DXF及びPDF 提出方法：GD又はDVDに保存し、 部提出する。

- 石綿含有材料の事前調査 (第1編1.8.2~3) [第1編1.8.2~3]
- 足場その他 (第1編2.1.1) [第1編2.2.2]
- 別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。
○ 本工事で設置する。
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
○内部足場(○種 ○種) ○外部足場(○種 ○種)

○埋戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷均しとする。
○ _____

○露出配管は、塗装を行う。
○ 屋内()
○ 屋外()
○ 屋外に敷設する露出配管で溶融亜鉛メッキ仕上げを使用する場合は付着量300g/㎡以上とする。

項目	特記事項		
●耐震措置	設備機器の固定は、次によるほか、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)による。 (1) 設備機器の固定は、施設の分類並びに機器の種別、重要性及び設置階に応じて、次の設計用水平地震力及び設計用鉛直地震力に対し、移動、転倒、破損などが生じないようにする。 ①設計用水平地震力 機器の重量〔kN〕に設計用水平地震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合は、設計用水平地震度は、次による。 設計用標準水平地震度		
	機器種別	●特定の施設 重要機器 一般機器	○一般の施設 重要機器 一般機器
	上層階 層上 及び塔屋	機 器 防振支持の機器 水 槽 類	2.0 1.5 2.0 2.0 2.0 1.5 1.5 1.0 1.0 1.0 1.5 1.0 1.0 1.0 1.0 1.5 1.0 1.0 0.6 0.6 1.0 1.0 1.0 0.6
	中間階	機 器 水 槽 類	1.5 1.5 1.5 1.5 1.5 1.0 1.0 0.6 0.6 1.0 1.0 1.0 0.6
	地階・1階	機 器 防振支持の機器 水 槽 類	1.0 1.0 1.0 1.0 1.0 1.5 1.0 1.0 1.0 0.6

- 上層階とは2~6階建の場合は最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
- 中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの
- 水槽類には燃料小出タンクを含む。
- 重要機器は次のものを示す。
○配電盤 ○発電装置(防災用) ○直流電源装置
○交流無停電電源装置 ○交換機 ○自動火災報知受信機
○中央監視装置 ○
- ②設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。
(2) 横引き配管等の耐震指示は、施設の分類に応じたものとする。

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、下記による。
○ 走査式埋設物調査 ● 放射線透過検査

●既存躯体への穿孔 (第1編2.11.1~5) [第1編2.11.1~5]

○電気工事士 (第2編2.1.1) [第2編2.1.4]

最大電力500〔kW〕以上の場合においても、電気工事士法(昭和35年法律第139号)に基づく有資格者により施工を行う。

●フラッシュプレート
フラッシュプレートは、図面に特記なき場合、(●金属製(ステンレス、新金属を含む) ○樹脂製)とする。

●電線の色別 (第2編2.1.3) (第3編1.1.4) [第2編2.1.4]

配線及び主回路の導体の色別は、次による。
○ 標準仕様書による。
○ 配線及び主回路の導体の色別は、下記による。

電気方式	第1相	第2相	第3相	中性相	
高圧 三相3線式	赤	白	青		
低圧 三相4線式	三相3線式	赤	接地側 白	黒	
	三相4線式	赤	接地側 白	黒	
	単相2線式	赤(青)	接地側 白		
	単相3線式	赤	青	白	
直流2線式	青	白			
配線	(1) 分岐回路の色別	分岐前の色別による。			
	(2) 発電回路の第2相	接地側の電線の色は黄色とする(無停電回路含む)			
	(3) 切替回路の2次側	規定しない。			
	(4) 漏電遮断器回路の接地	専用接地極とした時の接地線は、監督職員と協議し、一般接地線と色別を区別する。			
共通事項	配線(1)~(4)による。				
分電盤類	左右・上下及び遠近の別は、正面から見た状態	ア) 左右の別は、左からとする。 イ) 上下の別は、上からとし、直流2線式は、下からとする。 ウ) 遠近の別は、近いほうからとし、直流2線式は、遠いほうからとする。			

- 備考 (a) 配電盤類については、次による。
(1) 左右、遠近の別は、各回路部分における主となる開閉器の操作側又はこれに準ずる側から見た状態とし、分電盤類による。
(2) 三相回路又は単相3線式回路より分岐する回路は、分岐前の色別による。
(3) 三相交流の相は、第1相、第2相、第3相の順に相回転するものとする。
(b) 屋外架空配線の色別は、本表によらなくてよい。
(c) 接地線の色別は、監督職員の承諾を受けること。

○他工事又は他工種との取り合い
図面に特記なき場合は、工事区分表による。

○特殊場所 (第2編2.1.1~9)

特殊場所の種類	適用する場所	危険場所の種別	危険物の種類
○湿気の多い場所			
○気密性を要する場所			
○ガス蒸気危険場所			
○粉じん危険場所			
○危険物等貯蔵場所			
○腐食性ガスのある場所			
○騒音を受けるおそれのある場所			
○塩害を受けるおそれのある場所			

工事区分表

- 印の付いたものを適用する。
- が重複する項目は、それぞれの区分が必要とする工事を自ら行う。

区 分		建 電 機 土	備 考
項 目	名 称		
コンクリート穴あけ	梁、壁木製型枠入	●	墨出し、補修共
〃	壁スリーブ入れ	● ● ●	ポイド等
〃	床スラブ木製型枠入	●	墨出し、補修除く
〃	床スラブスリーブ入れ	● ● ●	ポイド等
同上開口部補強	鉄筋切断及び補強筋入れ	●	
配管ダクト類の防水		●	
貫通部補修		●	
A L Cパネルの穴あけ、補修	ダクト等の貫通部	●	
P C版の穴あけ	スリーブ入れ	●	
同上補修		● ● ●	モルタル充てん等
インサート	P C版	●	
インサート	コンクリート床	● ● ●	
天井点検口	点検口取付及び、開口部補強	●	ボード切込、墨出し共
軽量鉄骨下地開口部墨出し	電気設備関係開口部	●	照明器具等
〃	機械設備関係開口部	●	空調吹出口
軽量鉄骨下地開口部補強	天井及び壁、ボード切開	●	照明器具、空調吹出口、給排気、ガラリ等
開口補強を必要としないボード等の切開		● ● ●	ボード切込、墨出し共
特殊仕上材の天井、壁、床に取付ける器具等の穴あけ加工		●	石、金属パネル等
壁等重量物の下地補強	露出形器具取付用	●	
床点検口	点検口取付及び、開口部補強	● ● ●	墨出し共
防火区画貫通部補修		● ● ●	モルタル充てん等
機器・配管取付後の壁、床等の補修		● ● ●	
流し台、ミニキッチン本体、水切	ステンレス製（含む排水金具）	●	水切り板、同穴あけ共
同上用配管接続	給排水用	●	
流し台	陶器製	●	
洗面器等取付化粧板		●	
ルーフトレン		●	
壁樋	防露工事共	●	第1樹までの配管
雨水排水管	第1樹から排水幹線までの配管	●	第1樹を含む
〃	幹線の配管	●	
生活排水、実験排水管	建物及び第1樹までの配管	●	第1樹までの配管
〃	第1樹から排水幹線までの配管	●	第1樹を含む
〃	幹線の配管	●	
大型機械基礎		●	
同上基礎上鉄骨架台		●	
機器用アンカーボルト	ボイラ等機械設備関係機器	● ●	墨出し、型枠入れ共
〃	自家発電機等電気設備関係機器	●	墨出し、型枠入れ共
一般機器類の基礎	仕上げ共		図示による
屋外自立盤の基礎	仕上げ共		図示による
屋外貯油槽	地下式	●	
共同溝	歩床コンクリート	●	
建物、共同溝接続トレンチ		●	
同上接続部止水板			図示による
各種槽類	コンクリート製	●	
〃	S U S、FRP、鋼製	● ●	
〃	屋外大型のもの基礎	●	
〃	屋上設置のもの基礎	●	
換気扇取付	ダクトのあるもの	● ●	天井扇等
〃	壁、サッシ等への取付（材共）	● ●	フード取付共
同上用スイッチ		● ●	ボックス共
同上用電源配線		● ●	
同上用枠、取付板等	木製、アルミ製、鉄製	●	
全熱交換器		● ● ●	付属SWは電気工事へ支給
同上用スイッチ		● ● ●	付属SWの配線・取付は機械工事
外壁取付ガラリ	給排気用	●	
内壁取付ガラリ		●	遮光ガラリ共
ガラリへの給排気ダクト接続		●	
煙感知器連動防火戸		●	
同上用レリーズ	配管配線、ボックス共	● ●	
同上用煙感知器	リレー及びリレーまでの配管配線共	● ●	
排煙防火ダンパー	リレー取付まで①	● ●	
煙感知器連動シャッター	リレー取付まで②	● ●	
煙感知器連動防煙垂れ壁	リレー取付まで③	● ●	
上記①～③用煙感知器	リレーまでの配管配線共	● ●	

特記事項

区 分		建 電 機 土	備 考
項 目	名 称		
道路側清用排水	L型・U型と管敷設	●	
制御盤	制御盤以降の配管、配線共	●	
同上用電源配線	1次側接続まで	●	接地共
屋内消火栓	消火ポンプ、制御盤	● ●	
屋内消火栓起動リレー		●	
同上表示灯及び起動装置		● ●	
自動火災報知器		●	
連結送水口	座板共	● ●	
独立煙突		●	
同上煙道	鋼板製	● ●	
同上雷保護設備		●	
配管配線用ビット		●	
盤、配管、ダクト、配線用の二重床開口	フリーアクセスフロア等	●	
コンクリートシャフト		●	
点検口		●	
天井フック		●	
機械室、電気室の防音遮音処理		●	
特殊サイズ鏡		●	
化粧用洗面器、鏡	化粧カウンターは除く	● ●	
雷保護設備		● ●	
保守管理用タラップ、はしご		●	トレンチ、床下部、屋上
室内テレビ用吊金物		●	プロジェクター吊金物含む
テレビアンテナ	取付共	●	
同上用基礎		●	
グリストラップ及びガソリトラップ	コンクリート製 ステンレス鋼板製	● ●	
電動シャッターの配管配線	二次側、操作盤、押取付共	● ●	
同上用電源配線	一次側接続まで	● ●	
自動厚の配管配線	二次側	●	
同上用電源配線	一次側接続まで	● ●	
電気錠操作盤	読取装置共	●	物品による
同上配管配線		●	
電気錠	配管配線、接続ボックスまで	●	物品による
同上配管配線	操作盤～接続ボックスまで	● ●	
中央監視装置本体	関係機器、関係機器間配線を含む	● ●	
同上用電源配線	一次側接続まで	● ●	
同上用信号線	各メーターから装置まで	● ●	
ユニットバス本体	据付共	●	
同上用電源配線	一次側接続まで。SWの取付配線共	● ●	
同上用配管	接続まで	● ●	
冷蔵、冷凍、恒温恒湿、シールド、防音、無響室等の内装	現場製作	●	
同上用電源配線	一次側接続まで	● ●	
同上用照明・コンセント	電源配管配線、接続ボックス共	● ●	
同上用配管	接続まで	● ●	
冷蔵、冷凍、恒温恒湿、シールド、防音、無響室等の内装	ブレハ型	● ●	
同上用電源配線	一次側接続まで	● ●	
同上用照明・コンセント	電源配管配線、接続ボックス共	● ●	
同上用配管	接続まで	● ●	
		●	
芝生、種子吹付け		●	
法枠、モルタル吹付け		●	
コンクリート擁壁		●	
植栽			
自家発電設備			
屋外埋設タンク	タンク本体、配管ゴムシート・バンド・アンカーボルト	● ●	
同上ビット	コンクリート、モルタル、乾砂	● ●	
	マンホール、排水管	● ●	
発電機室	基礎、シンダーコンクリート、防露	●	

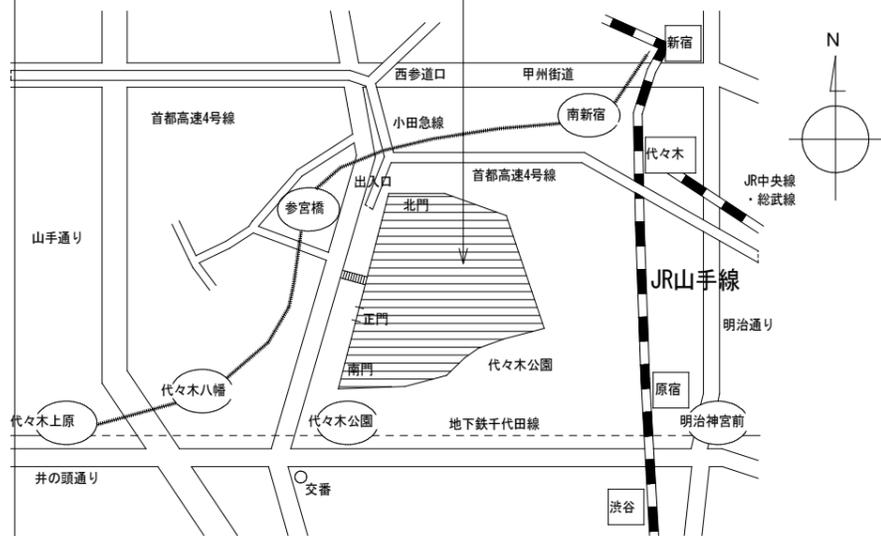
区 分		建 電 機	エレベーター	備 考
項 目	名 称			
昇降機関連	昇降機設備本体			●
	同上用機械室	三方枠、同取付後の壁補修まで（トロ詰め）	●	
	同上用監視盤			●
	同上換気扇取付			●
	機械室換気扇取付	サーモ、スイッチ共		●
	各種信号用制御線	停電用、火災用等	●	
	三方枠周囲の壁仕上		●	
	各階出入口用開口	敷居取付持出し共	●	
	昇降路内中間ビーム設置			●
	ビット内防水		●	
	動力、照明要電源、接地引き込み		●	
	コンセント設置	ビット内、機械室内	●	
	インターホン配線	シャフト外、監視盤～制御盤 シャフト内、制御盤内接続共	● ●	
	非常放送用スピーカー		● ●	● EV組込みのみEV
	同上用配線	シャフト外、AMP～制御盤 シャフト内、制御盤内接続共	● ●	● EV組込みのみEV
監視カメラ		● ●	● EV組込みのみEV	
同上用配線	シャフト外、監視制御装置～制御盤 シャフト内、制御盤内接続共	● ●	●	
点検用タラップ	ビット内		●	

区 分		建 電 機	エスカレーター	備 考
項 目	名 称			
エスカレーター設備	搬入口、搬え付け用穴明け、同復旧			
	フレーム受け用枠			
	吊込穴、フック、復旧工事			
	転落防止柵、網、仕切り板			
	三角ガード			
	天井目地、床、回り仕上げ			
	スプリンクラー等			
	防火シャッター			
	床部照明工事			
	下部機械室耐火構造及び防水工事			
	機械室受電盤までの動力線、電灯線、接地線の配管配線			
	点検用電源の機械室までの引き込み配管配線			
	シャッター及びエスカレーター電気インターロック用接点の供給及び配管配線工事（必要な場合）			
	監視盤との信号用配管配線工事			

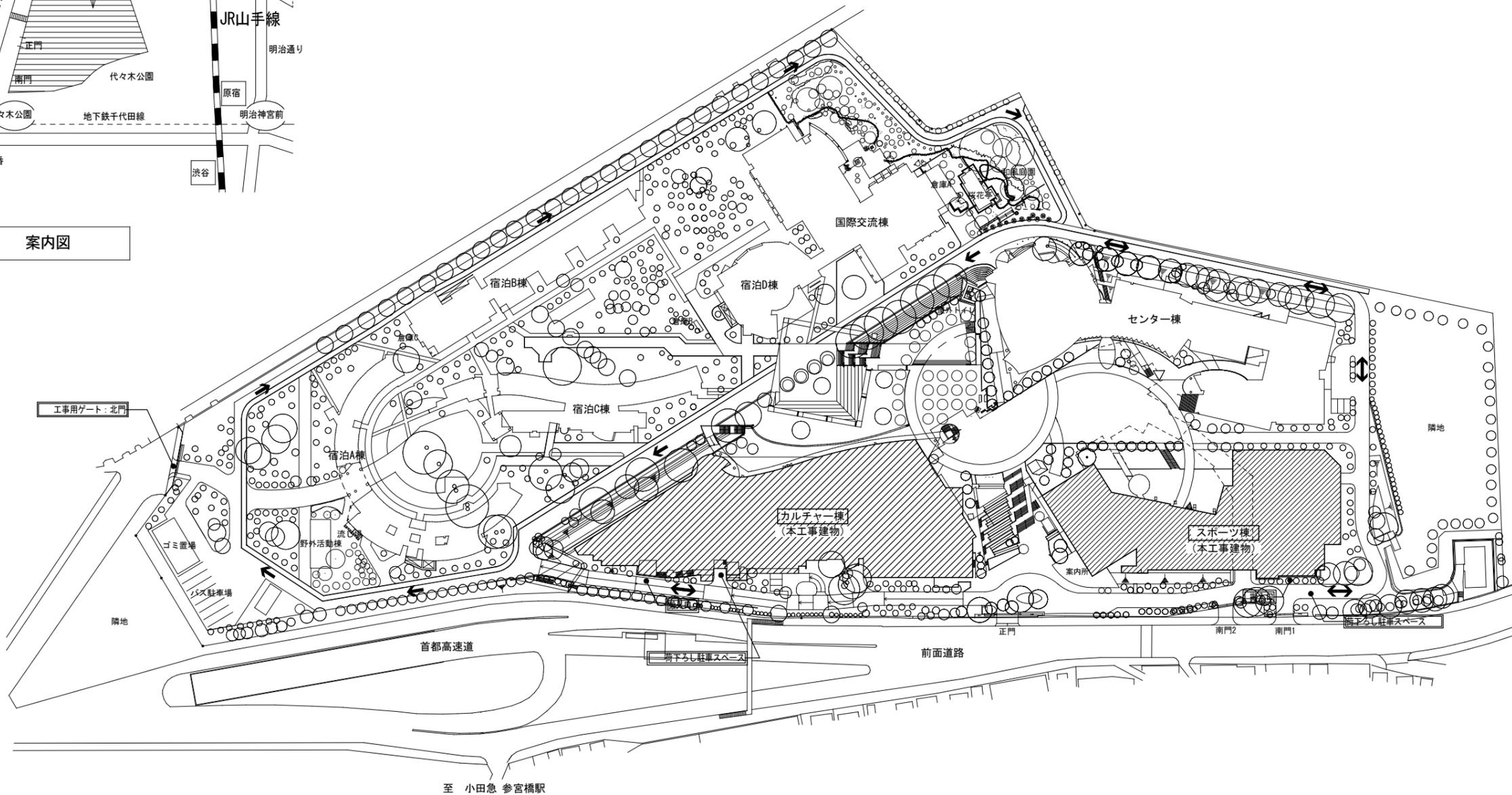
区 分		建 電 機	クレーン	備 考
項 目	名 称			
クレーン設備	走行レール、ストッパー			
	クレーン点検台及びはしご			
	走行用給電装置			
	電気工事（電源盤以降2次側）			

特記事項	課 長	課長補佐	係 長	担 当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
					特記仕様書(2)・工事区分表
					縮 尺 N S
独立行政法人 国立青少年教育振興機構					特-02
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)					株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬

(工事場所) 国立オリンピック記念青少年総合センター構内
 地名地番: 東京都渋谷区代々木神園町345番1他
 住居表示: 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

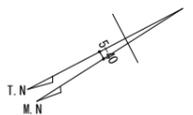


案内図



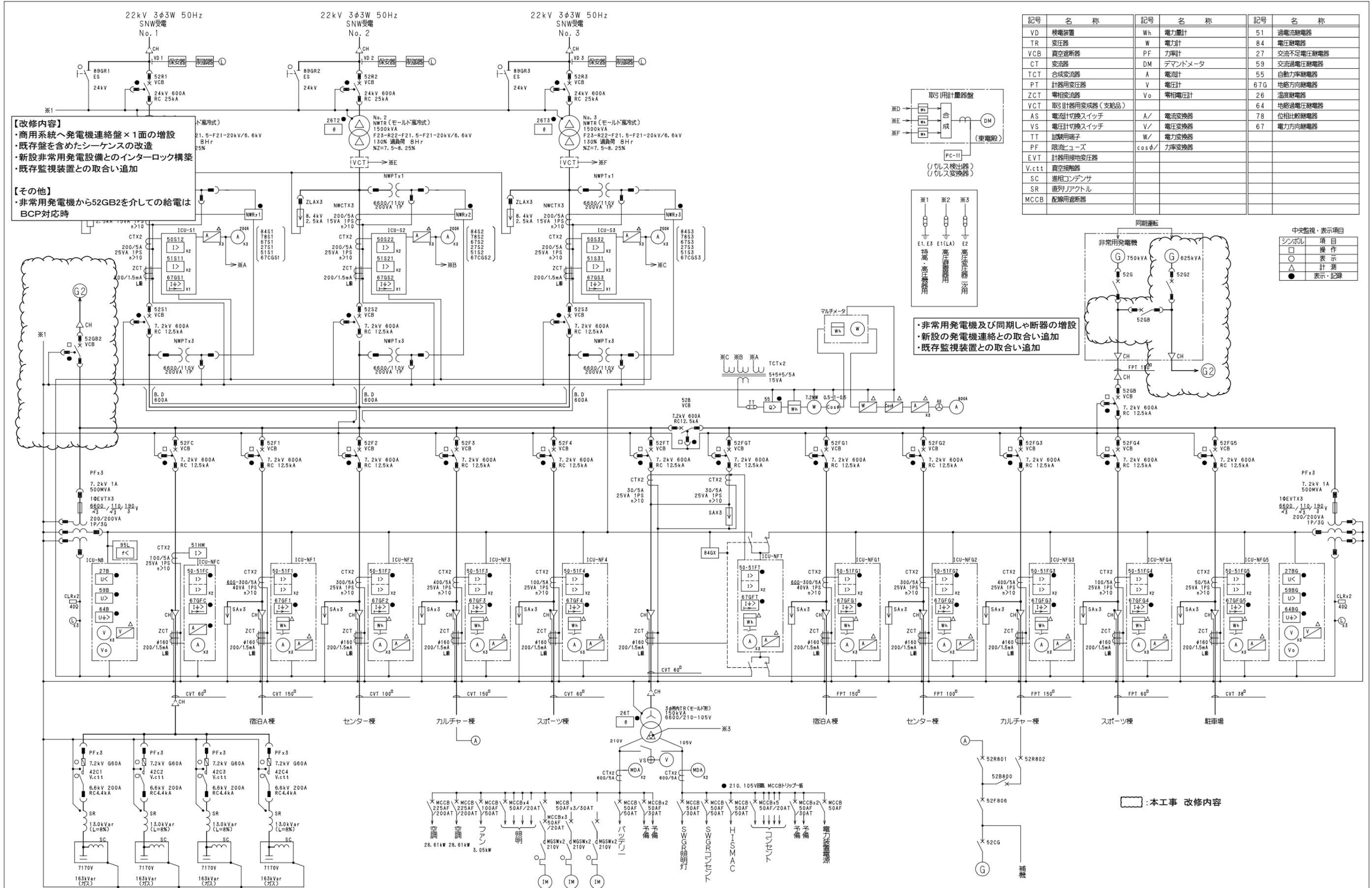
国立オリンピック記念青少年総合センター 全体配置図

- 【凡 例】 : 仮設計画内容を示す → : 工事車両動線 (一方通行)
- 【特記事項】
1. 工事用ゲートは北門とする。 ※パネルキャスターゲート (W5.4m×H2m) はセンター棟改修工事施工者が設置する
 2. 構内は搬出のみ入構可とする。(但し、構内有料駐車場は台数制限にて調整可) 当該棟搬入口付近より搬入を計画する。搬入利用時間は早朝~8:30までを基本とする
 3. 建物内上下搬入は、2台中1台のエレベーターの使用を可とする
 4. 工事進行に伴い適宜調整を行う他、構内運用状況、本棟別工事、及び他棟工事の状況より柔軟な対応があることを前提とする



特記事項

課 長	課長補佐	係 長	担 当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				配置図・案内図
				縮尺 1/1000
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-02
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所 (都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



【改修内容】
 ・商用系統へ発電機連絡盤×1面の増設
 ・既存盤を含めたシーケンスの改造
 ・新設非常用発電設備とのインターロック構築
 ・既存監視装置との取合い追加

【その他】
 ・非常用発電機から52GB2を介しての給電はBCP対応時

・非常用発電機及び同期しや断器の増設
 ・新設の発電機連絡との取合い追加
 ・既存監視装置との取合い追加

記号	名称	記号	名称	記号	名称
VD	検電装置	Wh	電力計	51	過電流継電器
TR	変圧器	W	電力計	84	電圧継電器
VCB	真空遮断器	PF	力率計	27	交流不足電圧継電器
CT	変流器	DM	デマンドメータ	59	交流過電圧継電器
TCT	合成変流器	A	電流計	55	自動力率継電器
PT	計器用変圧器	V	電圧計	67G	地絡方向継電器
ZCT	零相変流器	Vo	零相電圧計	26	温度継電器
VCT	取計計器用変成器(支給品)			64	地絡過電圧継電器
AS	電流計切換スイッチ	A/	電流変換器	78	位相比較継電器
VS	電圧計切換スイッチ	V/	電圧変換器	67	電力方向継電器
TT	試験用端子	W/	電力変換器		
PF	限流ヒューズ	cosφ/	力率変換器		
EVT	計器用接地変圧器				
V.ctt	真空接触器				
SR	進相コンデンサ				
SC	直列リアクトル				
MCCB	配線用遮断器				

中央監視・表示項目

シンボル	項目
□	操作
○	表示
△	計測
●	表示・記録

特記事項

※1 21.5-F21-20kV/6.6kV 8Hr 25k

※2 1500kVA F23-R22-F21.5-F21-20kV/6.6kV 130% 過負荷 8Hr 25k 2Z=7.5-8.25k

※3 1500kVA F23-R22-F21.5-F21-20kV/6.6kV 130% 過負荷 8Hr 25k 2Z=7.5-8.25k

※4 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※5 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※6 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※7 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※8 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※9 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※10 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※11 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※12 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※13 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※14 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※15 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※16 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※17 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※18 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※19 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※20 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※21 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※22 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※23 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※24 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※25 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※26 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※27 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※28 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※29 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※30 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※31 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※32 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※33 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※34 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※35 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※36 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※37 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※38 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※39 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※40 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※41 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※42 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※43 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※44 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※45 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※46 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※47 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※48 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※49 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※50 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※51 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※52 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※53 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※54 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※55 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※56 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※57 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※58 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※59 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※60 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※61 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※62 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※63 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※64 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※65 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※66 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※67 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※68 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※69 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※70 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※71 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※72 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※73 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※74 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※75 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※76 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※77 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※78 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※79 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※80 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※81 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※82 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※83 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※84 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※85 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※86 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※87 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※88 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※89 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※90 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※91 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※92 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※93 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※94 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※95 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※96 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

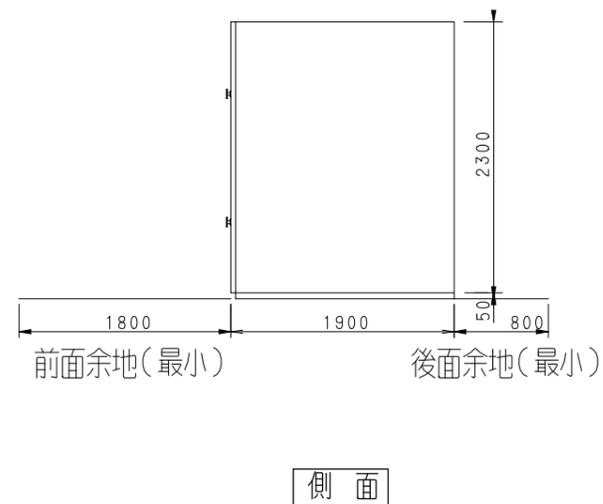
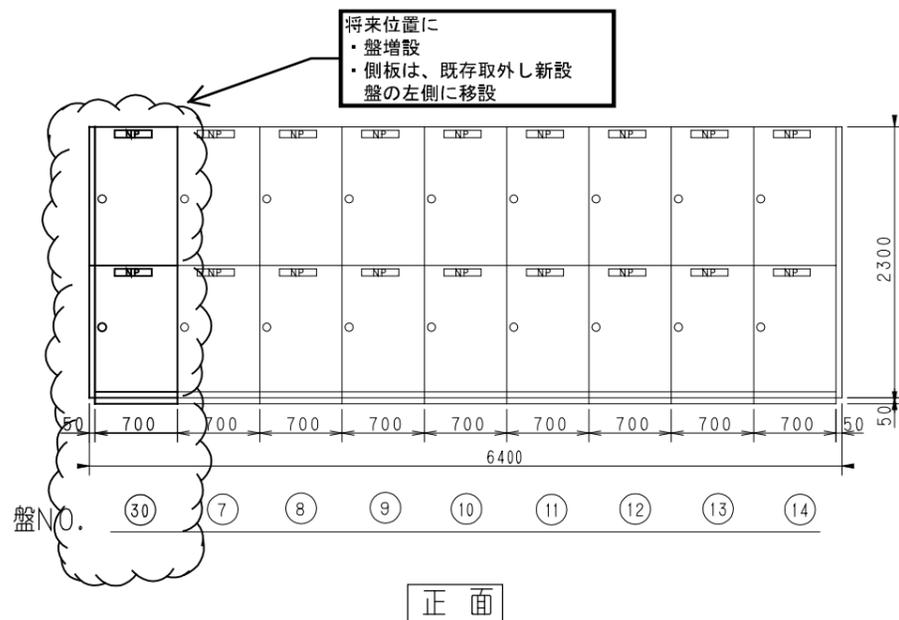
※97 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※98 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

※99 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

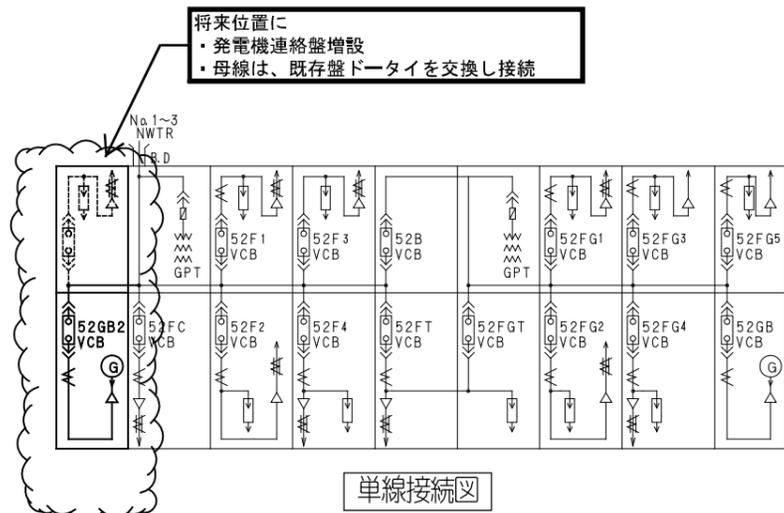
※100 210V 105V 200V 150V 100V 60V 38V

課長	課長補佐	係長	担当
独立行政法人 国立青少年教育振興機構			
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター 自家発電設備改修工事			
スポンジ棟 特高受変電設備 送電系統改修図			
縮尺 N.S			
独立行政法人 国立青少年教育振興機構			
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター 自家発電設備改修工事(設備)			
株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬			



【改修内容】
既設テイクオフ盤の商用母線に保安用発電機連絡盤を増設する

- ・新設盤「発電機連絡盤」
7. 2kV、600A、12. 5kA、MW級
※但しNW母線はFBC絶縁
- ・空ノ発電機連絡盤
1—VCB、7.2kV、600A、12.5kA
1—SL、CS、COS、NP、TB、盤内照明
- ・側板は、既存再利用
(M1左を取外し新設盤左に設置)
- ・付属品
1—基礎ベース
1—補修塗料、盤間接続導体、ハンディパワユニット



盤名称リスト

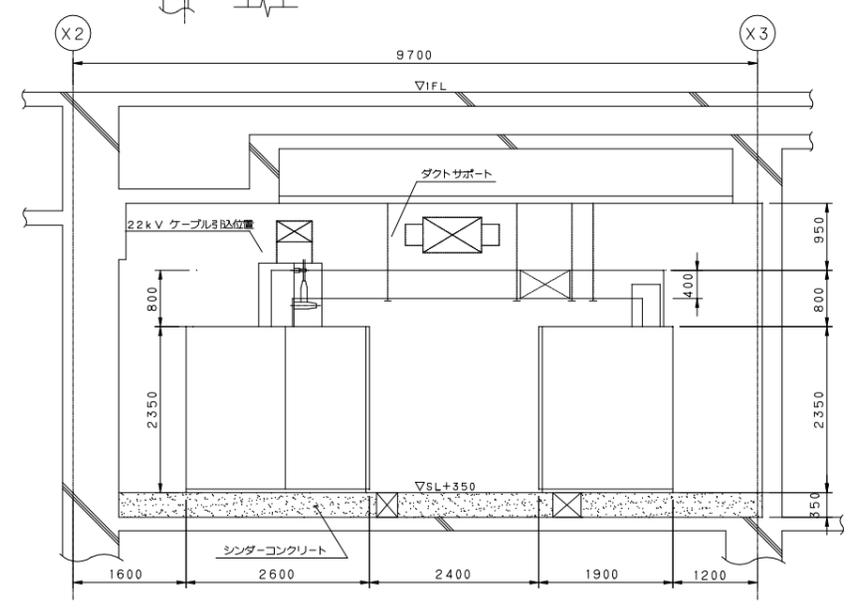
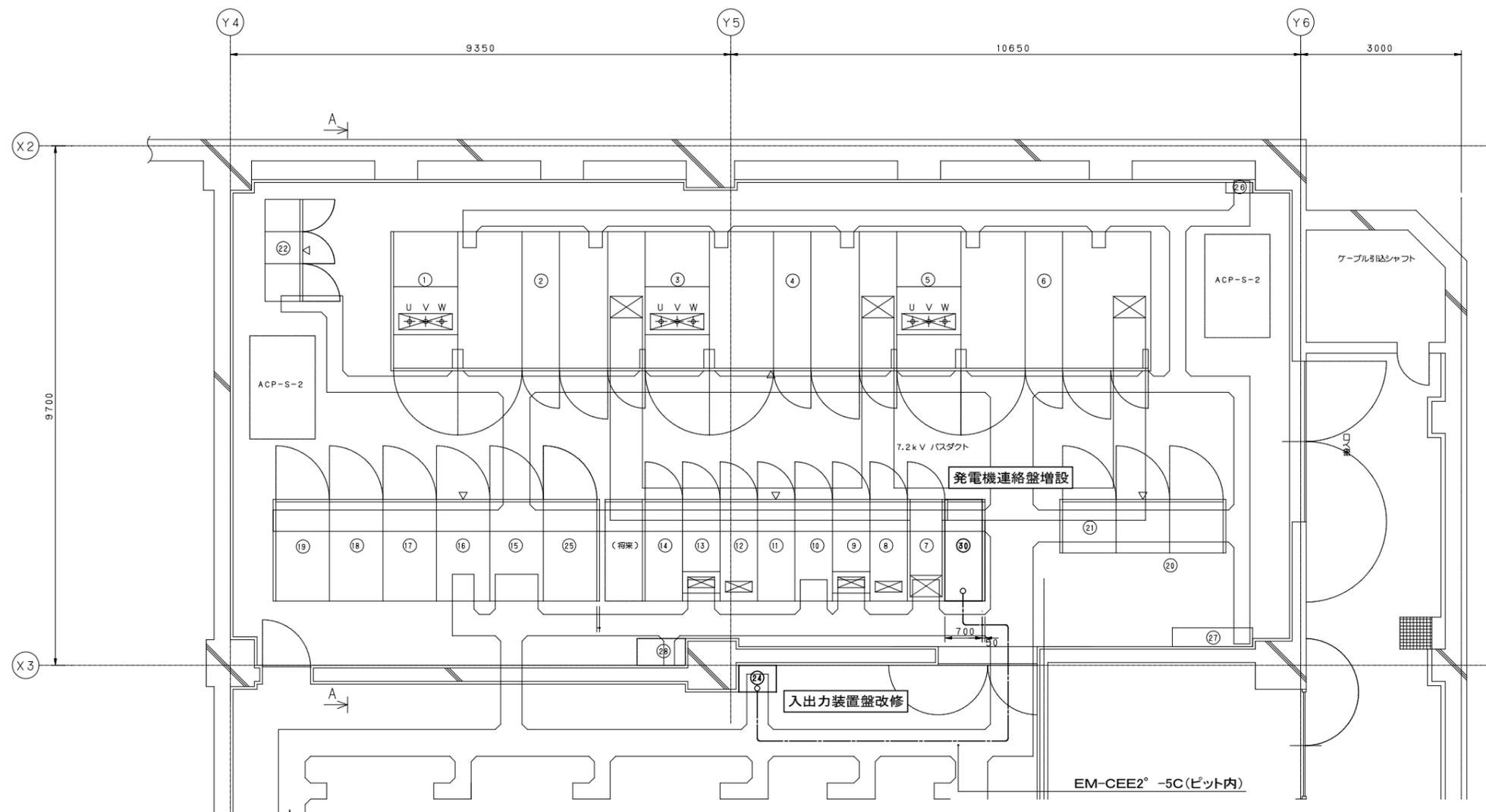
No.	盤名称	備考
⑦	テイクオフ盤(GPT/FC)	
⑧	〃 (F1/F2)	
⑨	〃 (F3/F4)	
⑩	〃 (B/FT)	
⑪	〃 (GPT/FGT)	
⑫	〃 (FG1/FG2)	
⑬	〃 (FG3/FG4)	
⑭	〃 (FG5/GB)	
⑳	テイクオフ盤 (スペース/発電機連絡盤)	増設

< 注記 >

- 【改修にあたり】
- ・ 停電は、12時間×1日確保し行う。
 - ・ 電源は、主回路・制御回路共に停電状態で行う。
 - ・ 作業は、平日日中にて実施できるよう調整すること。
 - ・ 盤増設する床面の強度は十分あるものとし施工する。
- 【施工内容】
- ①事前
- 1) 搬入
 - 2) 制御線、アース線
 - 3) 確認・段取り
 - 4) 耐圧試験
- ②停電日
- 1) 側板取外し
 - 2) 母線接続
 - 3) 制御線接続
 - 4) ガー
 - 5) 試験
- ③その他・・・既存盤のシーケンス改造は、平行して実施する。(事前、停電日)

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				スポーツ棟 特高受変電設備 機器委図・アロックス社
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				縮尺 N.S
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬
				E-04



【改修内容】
 1. 発電機連絡盤の増設
 2. 既存監視装置との取合い追加
 ・増設盤～入出力装置盤間の配線

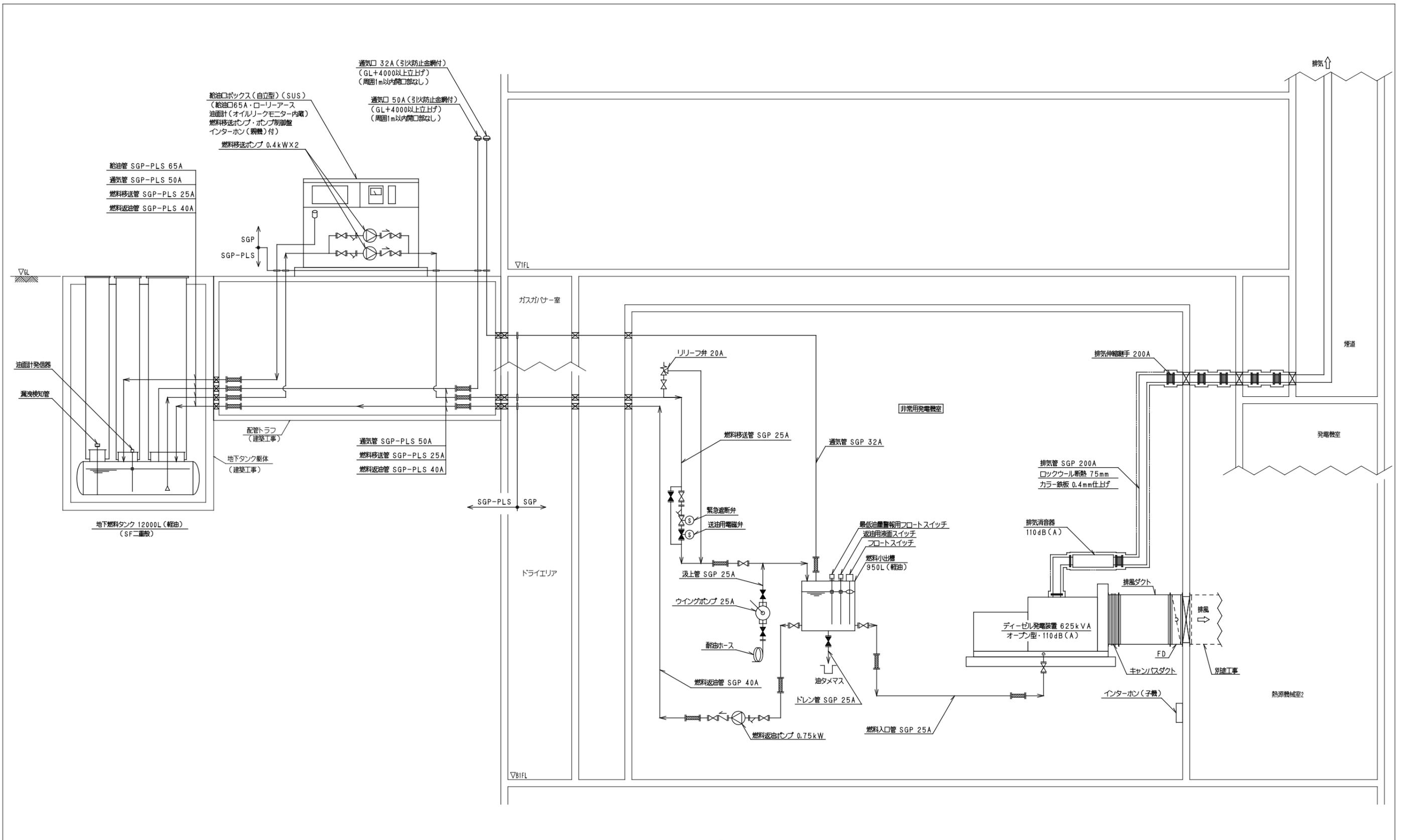
u 盤名称リスト

No.	盤名称	備考
①	No.1 引込盤	(寸法): 参考値 1200X2600X2300
	〃 変圧器ユニット	—
	〃 PCTユニット	—
②	〃 LAユニット	—
	〃 PTユニット	—
	〃 プロテクタユニット	700X2600X2300
③	No.2 引込盤	1200X2600X2300
	〃 変圧器ユニット	—
	〃 PCTユニット	—
④	〃 LAユニット	—
	〃 PTユニット	—
	〃 プロテクタユニット	700X2600X2300
⑤	No.3 引込盤	1200X2600X2300
	〃 変圧器ユニット	—
	〃 PCTユニット	—
⑥	〃 LAユニット	—
	〃 PTユニット	—
	〃 プロテクタユニット	700X2600X2300
⑦	デイクオフ盤(GPT/FC)	700X1900X2300
⑧	〃 (F1/F2)	〃
⑨	〃 (F3/F4)	〃
⑩	〃 (FB/FT)	〃
⑪	〃 (GPT/FGT)	〃
⑫	〃 (FG1/FG2)	〃
⑬	〃 (FG3/FG4)	〃
⑭	〃 (FG5/GB)	〃
⑮	所内変圧器盤(1)	1000X1900X2300
⑯	コンデンサ盤 1	1000X1900X2300
⑰	〃 2	〃
⑱	〃 3	〃
⑲	〃 4	〃
⑳	ネットワーク盤	2000X1000X2350
㉑	中継端子盤	1000X1000X2350
㉒	直流電源装置盤	1900X 700X2300
㉓	監視操作卓	3030X1150X1350
㉔	入出力装置盤(RS盤)	改修(別途)
㉕	所内TR盤(2)	1000X1900X2300
㉖	接地端子盤	
㉗	計量器盤	
㉘	動力盤	
㉙	分電盤	
㉚	デイクオフ盤 (発電機連絡盤/スペース)	増設

U断面 A-A

特記事項

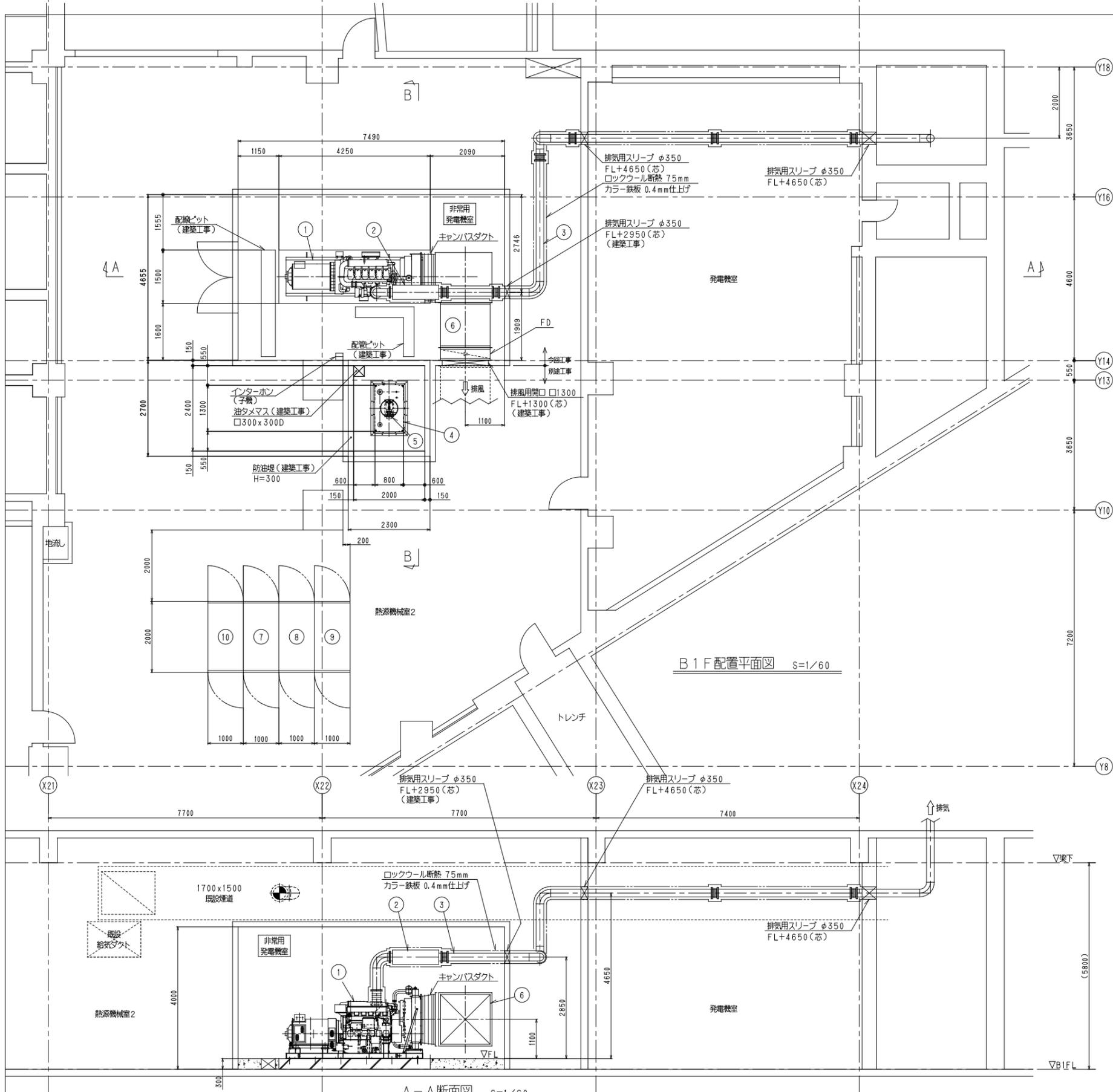
課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				スポーツ棟 特高受変電設備 電気室改修図
				縮尺 1/50
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-05
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



配管系統図

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				カルチャー棟 発電設備(自家発電) 配管系統図
				縮尺 N.S
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-07
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



機務表

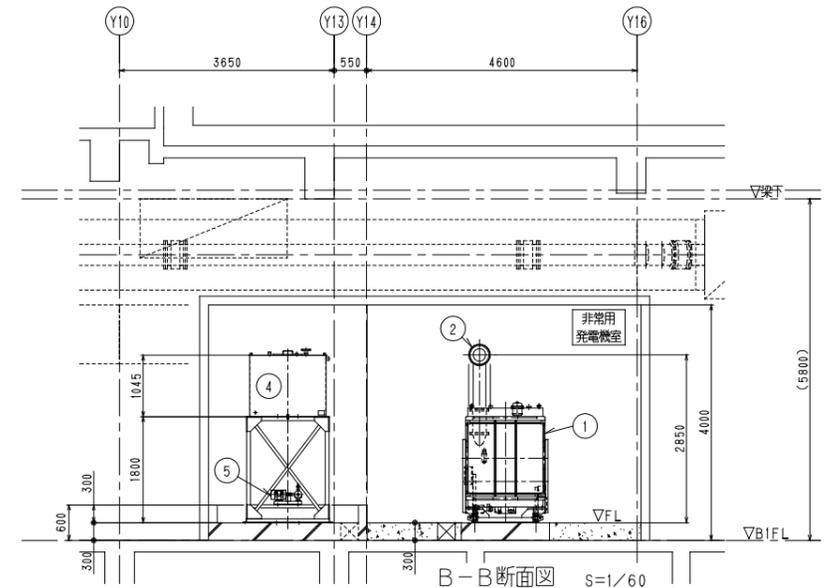
番号	名称	数量	備考	重量(参考)
1	ディーゼル発電装置	1	625kVA・50Hz・6600V・110dB(A)※	静荷重 約 5910kg 動荷重 約 8746kg
2	排気消音器	1	110dB(A)	約 150kg
3	排気管	1	SGP 200A	-
4	燃料小出槽	1	950L(軽油)	満注時 約 1228kg
5	燃料返油タンク	1	0.75kW	約 39kg
6	排風ダクト	1		-
7	自動始動発電機	1		-
8	同機	1		-
9	始動用直流電源盤	1		-
10	補機電源盤	1		-

※ 4方向エネルギー平均
機側1m、高さ1.2m 半自由音場下による

発電機室必要給気量 683.7 m³/min
ラジエータ排気量 630.0 m³/min

B1F配置平面図 S=1/60

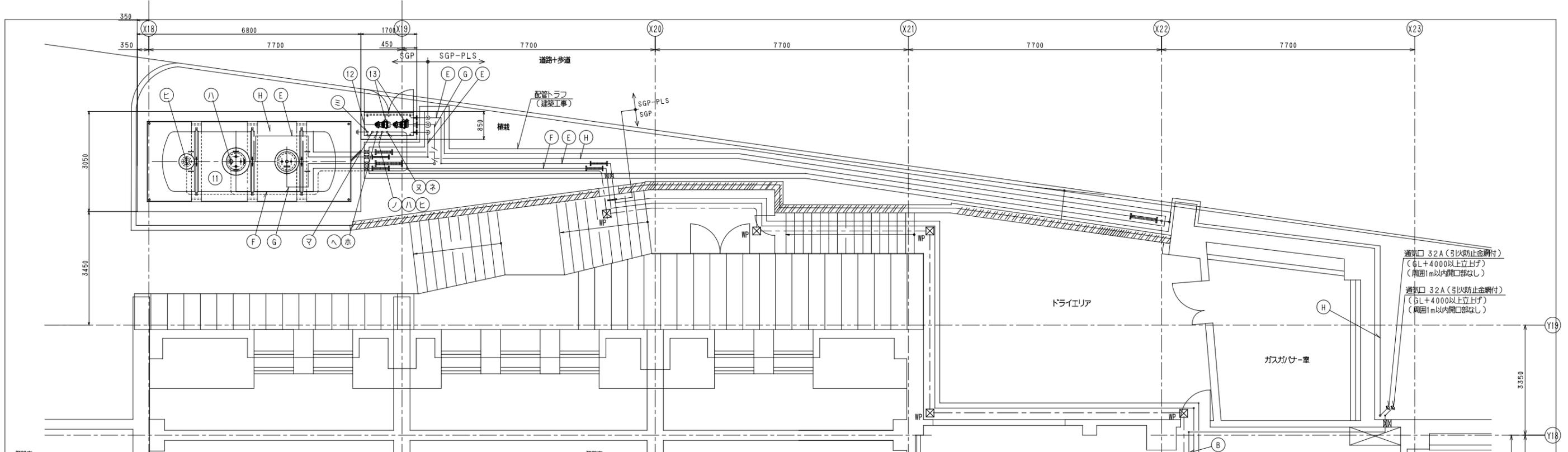
A-A断面図 S=1/60



B-B断面図 S=1/60

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				カルチャー棟 発電設備(自家発電) 配置図
				縮尺 1/60
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-08
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



機器表

番号	ケーブル用途	ケーブルサイズ	保護管	自	至
ア	主回路 AC6600V	EM-CE 3φ 38sq	(G70)	⑦ 自動始動発電機盤	① ディーゼル発電装置
イ	アース	EM-IE 38sq		〃	〃
ウ	発電機ベースヒータ	EM-CE 3.5sq-2c	(G22)	〃	〃
エ	扇機回路 (J・K)	EM-CE 3.5sq-2c	(G22)	〃	〃
オ	タコジェネ	EM-CEES 2.0sq-2c	(G22)	〃	〃
カ	燃料電磁弁	EM-CE 3.5sq-2c	(G22)	〃	〃
キ	スタータスイッチ	EM-CE 3.5sq-3c	(G22)	〃	〃
ク	電子ガけ	EM-CE 5.5sq-2c	(G22)	〃	〃
ケ	電子ガけ制御信号	EM-CE 2.0sq-6c	(G22)	〃	〃
コ	満油アラーム信号	EM-CE 3.5sq-3c	(G22)	〃	〃
サ	冷却水保護ヒータ	EM-CE 2.0sq-2c	(G22)	〃	〃
シ	機油警報用、制御用	EM-CEE 2.0sq-6c	(G22)	〃	① ディーゼル発電装置
ス	充電用電源	EM-CE 3.5sq-2c	(G22)	〃	⑧ 始動用直流電源盤
セ	照明電源	EM-CE 3.5sq-2c	(G22)	〃	〃
ソ	DC24V制御電源	EM-CEE 5.5sq-2c	(G22)	〃	〃
タ	警報用	EM-CEE 2.0sq-2c	(G22)	〃	〃
チ	アース	EM-IE 5.5sq		⑦ 自動始動発電機盤	⑧ 始動用直流電源盤
ツ	始動回路 (セルモーター用)	EM-CE 150sq-1C X2	(G70)	⑧ 始動用直流電源盤	① ディーゼル発電装置
テ	燃料移送ポンプ運転、停止信号・油面低下、上昇警報用	EM-CEE 2.0sq-6c	(G22)	⑦ 自動始動発電機盤	④ 燃料小出櫃 (フロントスイッチ)
ト	燃料油面低下警報	EM-CEE 2.0sq-2c	(G22)	〃	④ 燃料小出櫃 (液面スイッチ)
ナ	液面スイッチ (返油ポンプ運転信号)	EM-CEE 2.0sq-2c	(G22)	〃	④ 燃料小出櫃 (返油用液面スイッチ)
ニ	燃料返油ポンプ電源 3φ AC200V 0.75kW	EM-CE 3.5sq-3c	(G22)	〃	⑤ 燃料返油ポンプ
ノ	燃料移送ポンプ運転信号	EM-CEE 2.0sq-2c	(G22)	〃	⑪ 給油口ボックス (ポンプ制御盤)
ネ	燃料移送ポンプ故障信号	EM-CEE 2.0sq-2c	(G22)	〃	⑪ 給油口ボックス (ポンプ制御盤)
ジ	地下燃料タンク油面低下・漏油警報信号	EM-CEE 2.0sq-4c	(G22)	⑦ 自動始動発電機盤	⑪ 給油口ボックス (油面計)
ハ	地下燃料タンク油面信号	EM-CEES 2.0sq-3c	(G22)	⑪ 給油口ボックス (油面計)	⑩ 地下燃料タンク (油面計発信器)
ヒ	地下燃料タンク漏油警報信号	EM-CEE 2.0sq-2c	(G22)	⑪ 給油口ボックス (油面計)	⑩ 地下燃料タンク (漏油検知器)
フ	電磁弁電源	EM-CE 2.0sq-2c X2	(G28)	⑦ 自動始動発電機盤	送油用電磁弁、緊急遮断弁
ヘ	インターホン電源	EM-CE 2.0sq-2c	(G22)	⑦ 自動始動発電機盤	⑪ 給油口ボックス (インターホン機)
ホ	インターホン	EM-AE 0.9-2C	(G22)	⑪ 給油口ボックス (インターホン機)	インターホン子機
マ	補機電源	EM-CE 5.5sq-4c	(G28)	⑦ 自動始動発電機盤	⑪ 給油口ボックス
ミ	ローリーアース	EM-IE 5.5sq		⑪ 給油口ボックス	アース
ム	扇機ガスタービン主回路AC6600V	EM-FPT 150sq	(G104)	⑧ 同期盤	扇機ガスタービン発電機盤
メ	同期信号	EM-CEE 2.0sq-10c	(G28)	⑧ 同期盤	扇機ガスタービン発電機盤

注記
 1. --- ケーブルは、ピット内布設線を示す。
 2. - - - ケーブルは、露出電線管布設線を示す。
 3. ---- ケーブルは、埋設線を示す。

機器表

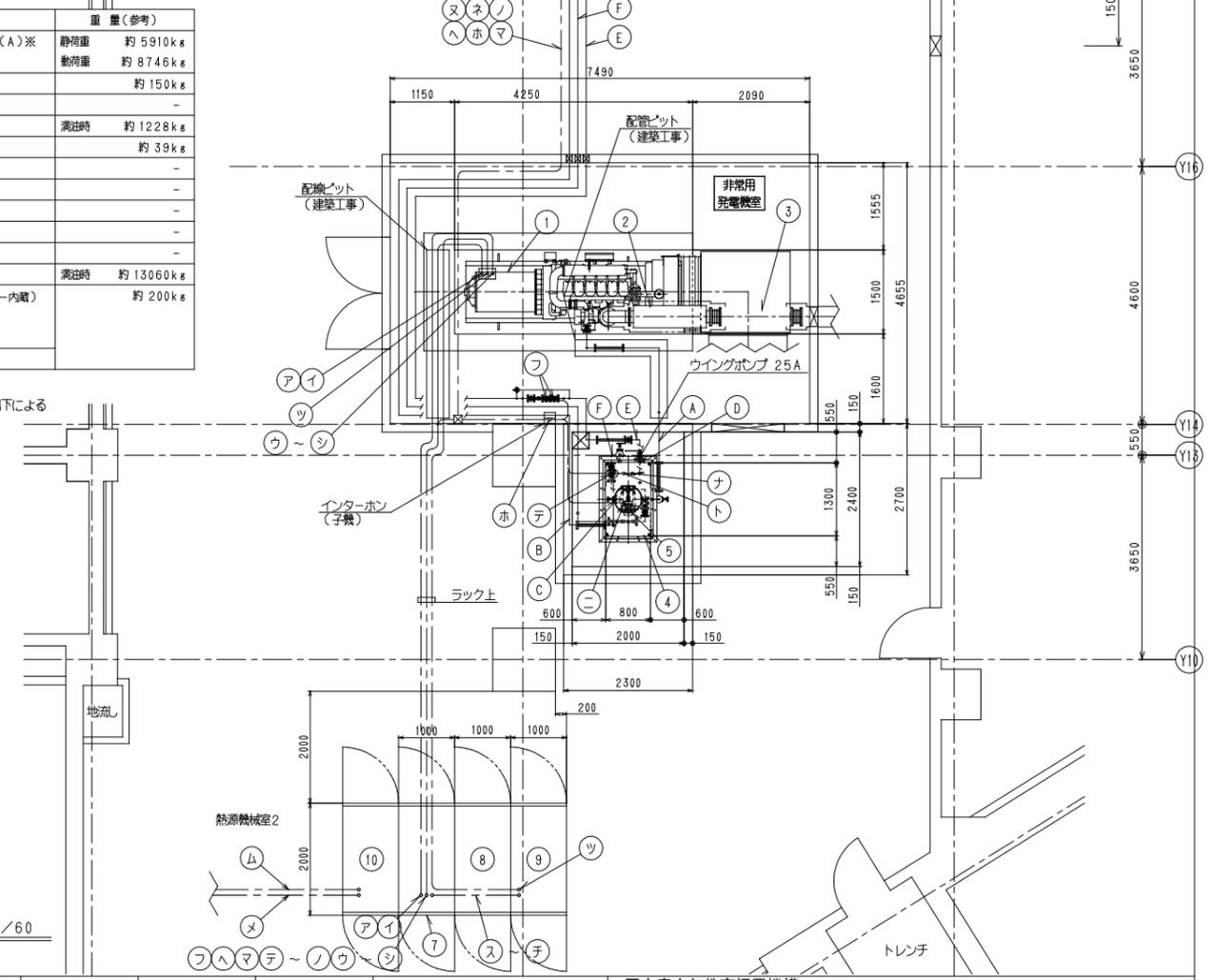
番号	名称	数量	備考	重量 (参考)
1	ディーゼル発電装置	1	625kVA・50Hz・6600V・110dB(A)※	静荷重 約 5910kg 動荷重 約 8746kg
2	排気消音器	1	110dB(A)	約 150kg
3	排気管	1	SGP 200A	-
4	燃料小出櫃	1	950L (軽油)	満油時 約 1228kg
5	燃料返油ポンプ	1	0.75kW	約 39kg
6	排風ダクト	1	-	-
7	自動始動発電機盤	1	-	-
8	同期盤	1	-	-
9	始動用直流電源盤	1	-	-
10	補機電源盤	1	-	-
11	地下燃料タンク (SF二重殻)	1	12000L (軽油)	満油時 約 13060kg
12	給油口ボックス (自立式)	1	給油口65A・油面計 (オイルリークモニター内蔵) ローリーアース・インターホン (親機) 燃料移送ポンプ・ポンプ制御盤付	約 200kg
13	燃料移送ポンプ	2	0.4kW (給油口ボックス搭載)	-

※ 4方向エネルギー平均
 機高1m、高さ1.2m 半自由音場下による

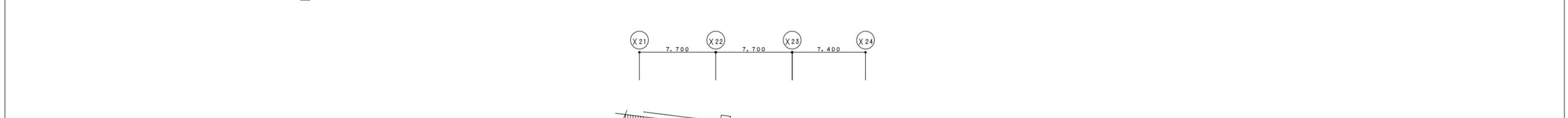
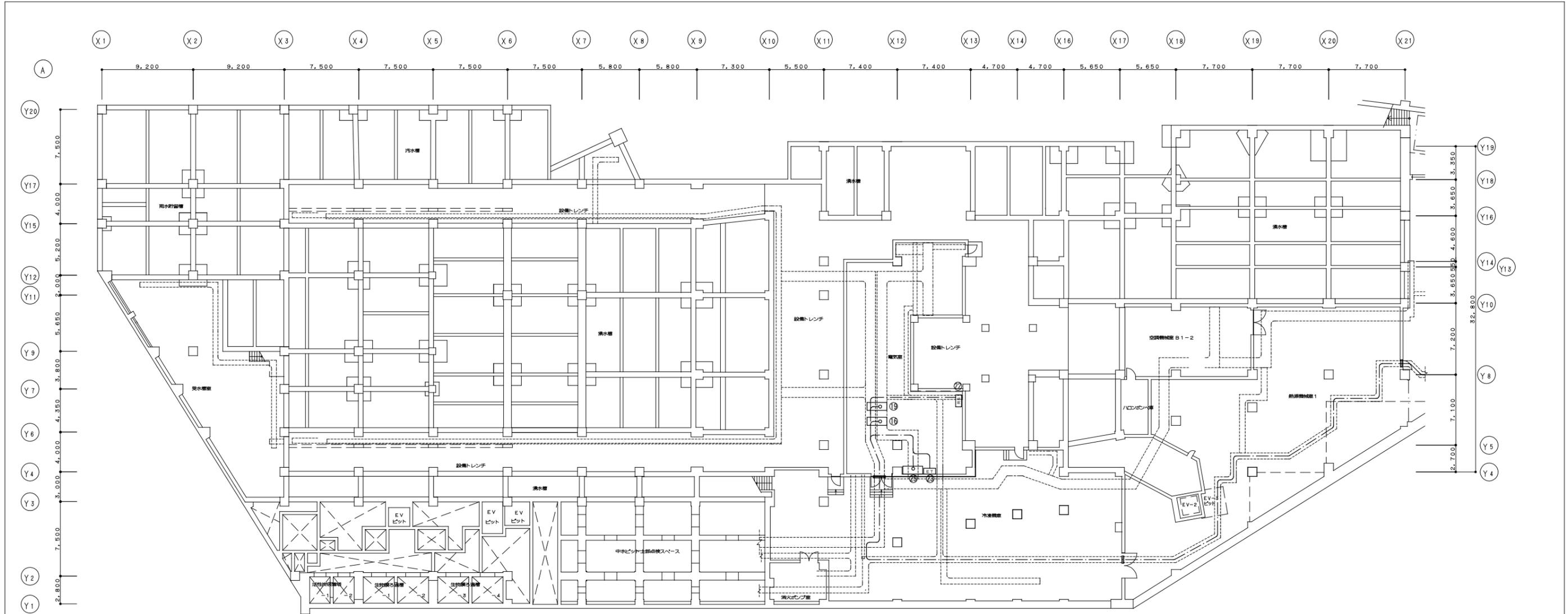
配管表

記号	管名称	材質	口径	備考
A	燃料入口管	SGP	25A	
B	排気管	SGP	32A	燃料小出櫃用
C	ドレン管	SGP	25A	
D	汲上管	SGP	25A	
E	燃料移送管	SGP・SGP-PLS	25A	
F	燃料返油管	SGP・SGP-PLS	40A	
G	給油管	SGP・SGP-PLS	65A	
H	排気管	SGP・SGP-PLS	50A	地下燃料タンク用

B1F 配管配線ルート図 S=1/60



課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				カルチャー棟 発電設備 (自家発電) 配線・配管ルート図
				縮尺 1/60
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-09
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務 (設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所 (都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬

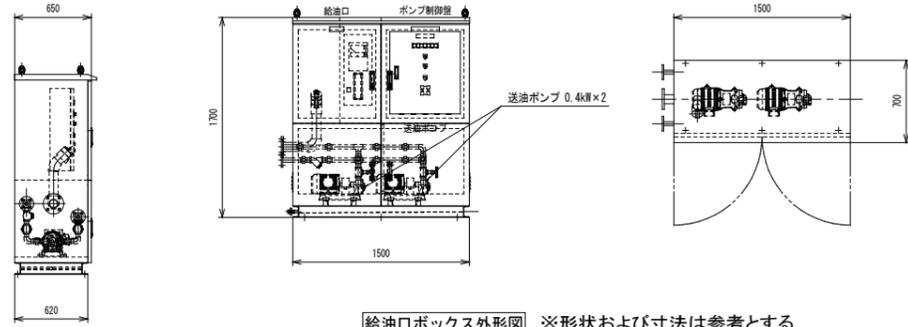


記号	名称	備考	更新
①	低圧非常動力盤 No.2	既設	予備1^ -スにMOE3P225/125x1を取付
②	低圧非常電灯盤 No.1	既設	予備1^ -スにMOE2P50/20x1を取付
③	接地端子盤	既設	
④	中央監視 RS室	既設	
⑤	直流電源装置	既設	予備1^ -スにMOE2P50/20x1を取付
⑥	既設 発電機盤	既設	
⑦	新設 発電機盤		
⑧	新設 自動始動盤		
⑨	新設 同期連絡盤		
⑩	新設 補機電源盤		

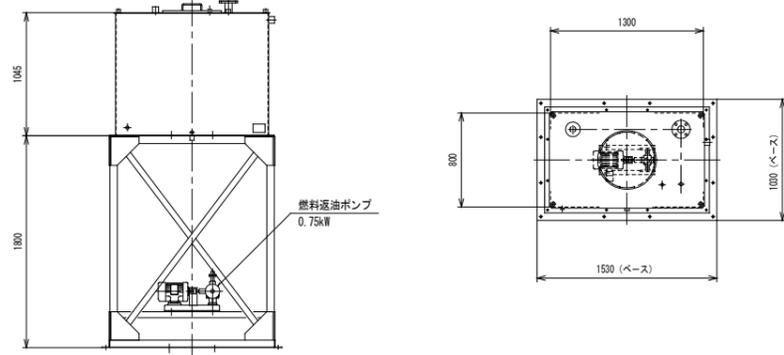
配線表			
配線	種別	自	至 備考
EM-CET14" E5.5"	3φ電源	①	ラック上
EM-CE5.5" -2C	1φ電源	②	ラック上
EM-CE5.5" -2C	DC電源	③	ラック上
EM-CEE2" -4C	警報	④	ラック上
EM-CEES2" -4C	計測	⑤	ラック上
EM-CEES2" -10C	同期	⑥	ラック上
6kV EM-FPT150"	6kV	⑦	高圧用ラック上
EM-IE38" x2	EA, D	⑧	ラック上

特記事項

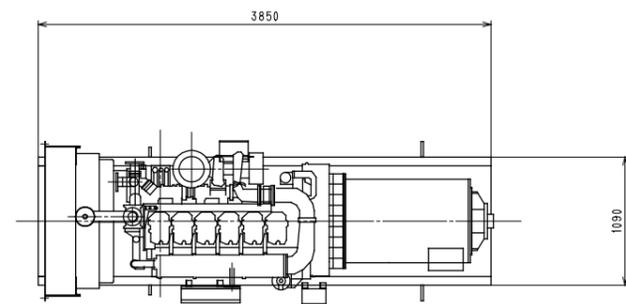
課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				カルチャー棟 発電設備(自家発電) B1階配線図
				縮尺 1/200
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-10
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



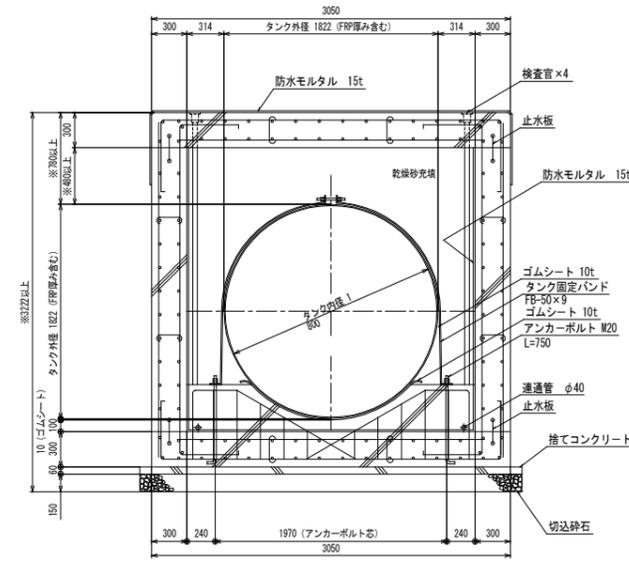
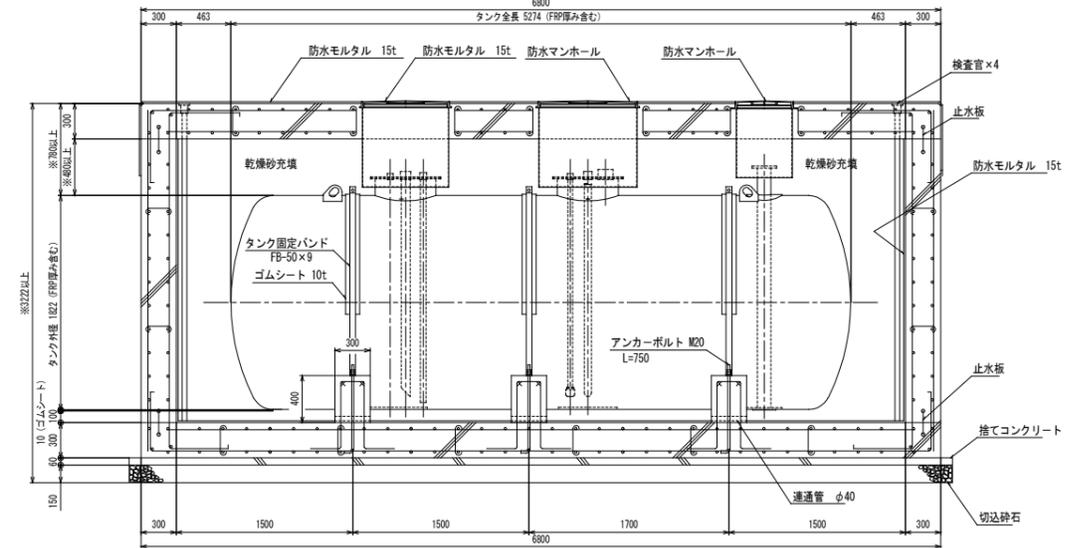
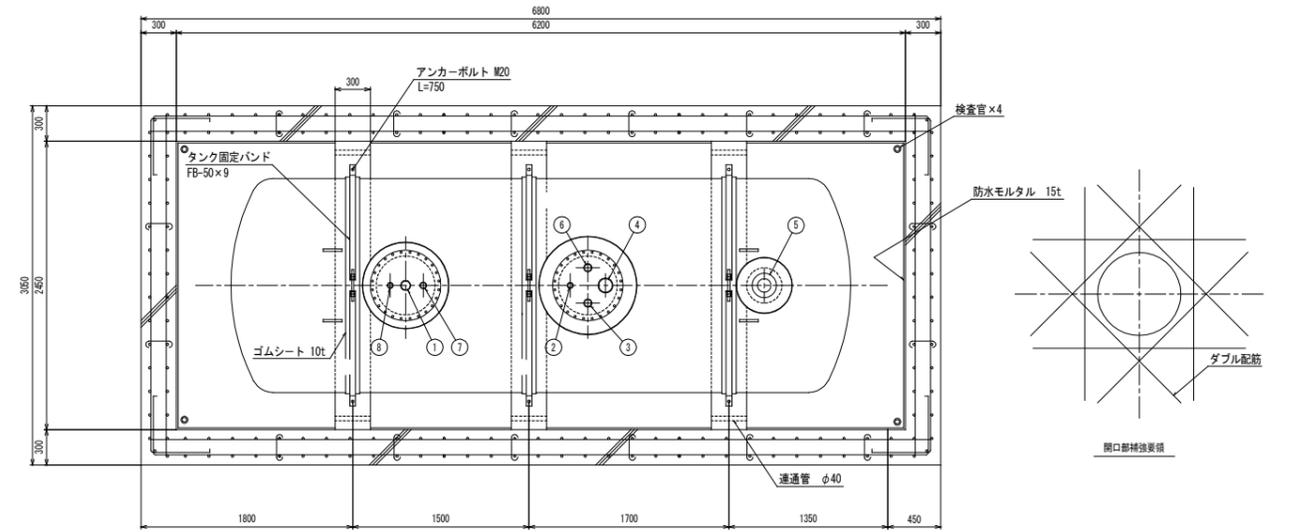
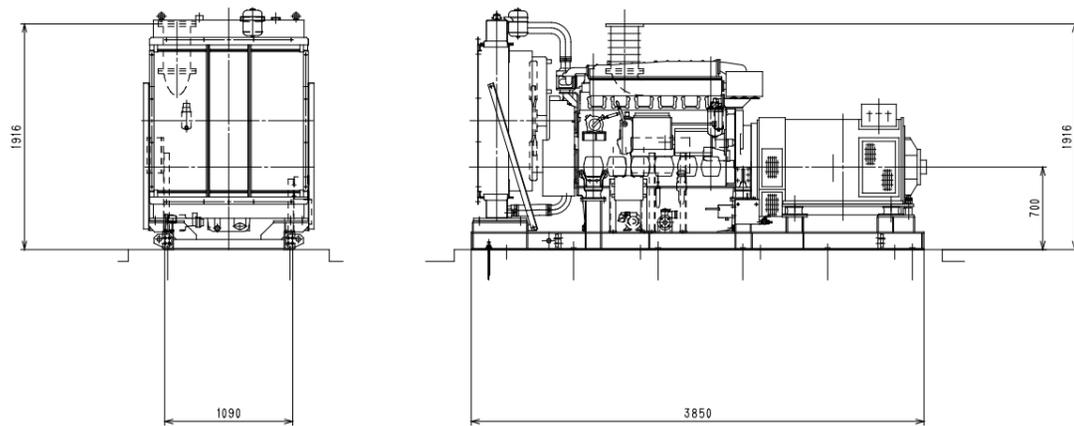
給油口ボックス外形図 ※形状および寸法は参考とする



950L 燃料小出槽外形図 ※形状および寸法は参考とする



625kVA 発電設備外形図 ※形状および寸法は参考とする



12000L地下燃料タンク (SF二重殻) 躯体図 ※形状及び寸法は参考とする

ノズル明細表

No.	名称	口径	フランジ種類、形状
①	注油口	65A	ソケット
②	送油口	25A	ソケット
③	通気管	50A	ソケット
④	液面計口	100A	ソケット
⑤	漏洩検知管	100A	10K SOP-FF
⑥	返油口	40A	ソケット
⑦	除水口	40A	ソケット
⑧	計量口	32A	ソケット

※埋設深さは、現場の油配管勾配により決定すること。
 注1) タンク付近は火気厳禁の事
 注2) 切込砕石は切込砂利又は再生クラッシュランでも可

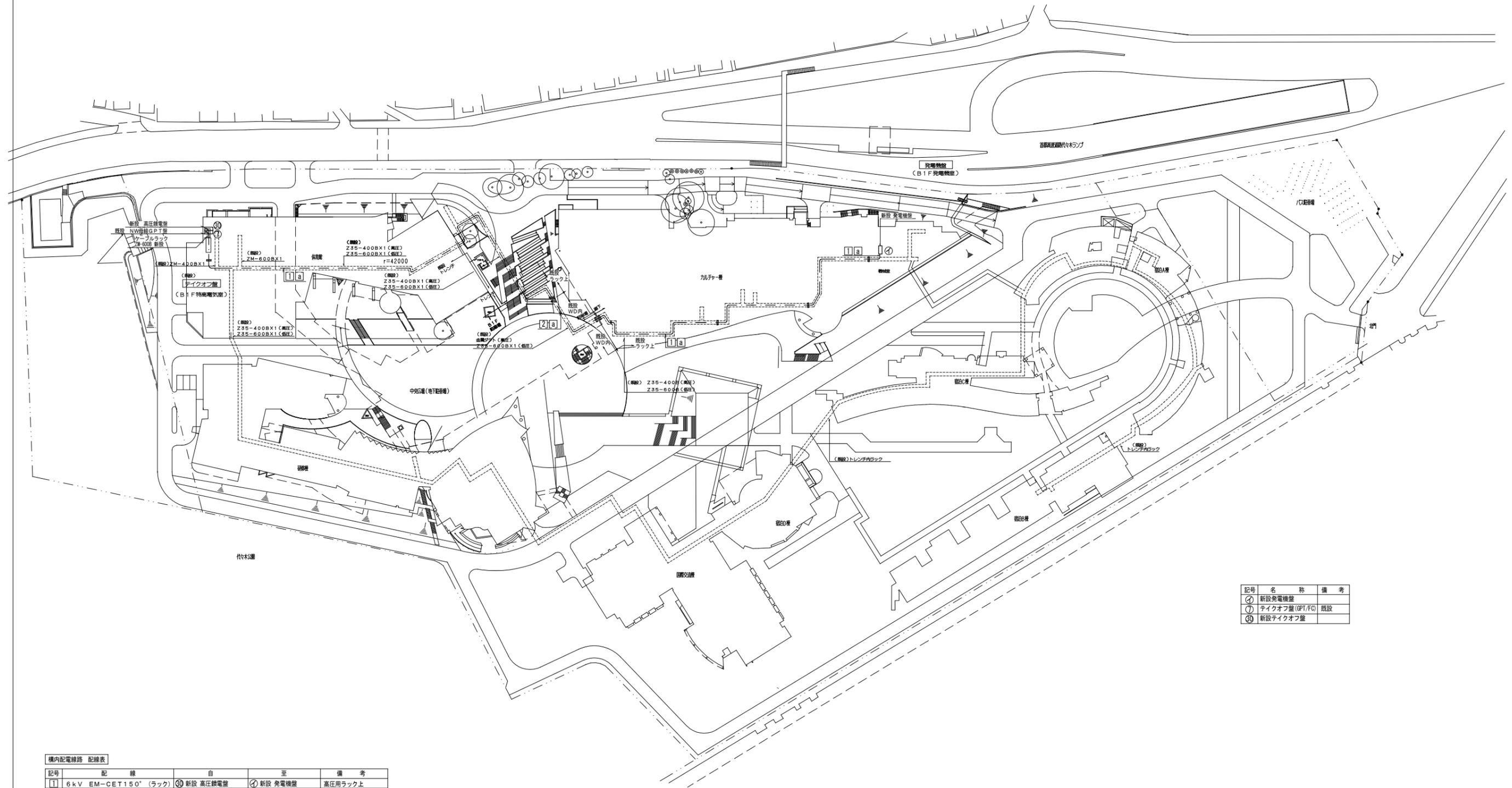
配筋に関しては、平成18年6月9日発行 消防第112号
 「地下貯蔵タンク及びタンク室の構造例について」を参考とし、
 安全側に施工すること

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				カルチャー棟 発電設備(自家発電) 機器図・燃料貯蔵
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				縮尺 1/30
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所 (都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬

記号	名称	備考
—	ケーブルラック	既設
■	防火区画貫通処理	一部撤去 再取付
—	ケーブルラック上配線	一部 ダクト

- 【注記】
- 1 高圧ケーブルは既設高圧ケーブルラック上に布設すること
また布設スペースが無い場合は段積みせず、既設ケーブルをずらし、整然と布設すること
 - 2 切替や接続時間を短くするため、事前に十分調査、段取りを行い施工すること
 - 3 高圧発電機より商用停電番号、商用復電番号（NWR合成番号）を新設発電機盤に送る

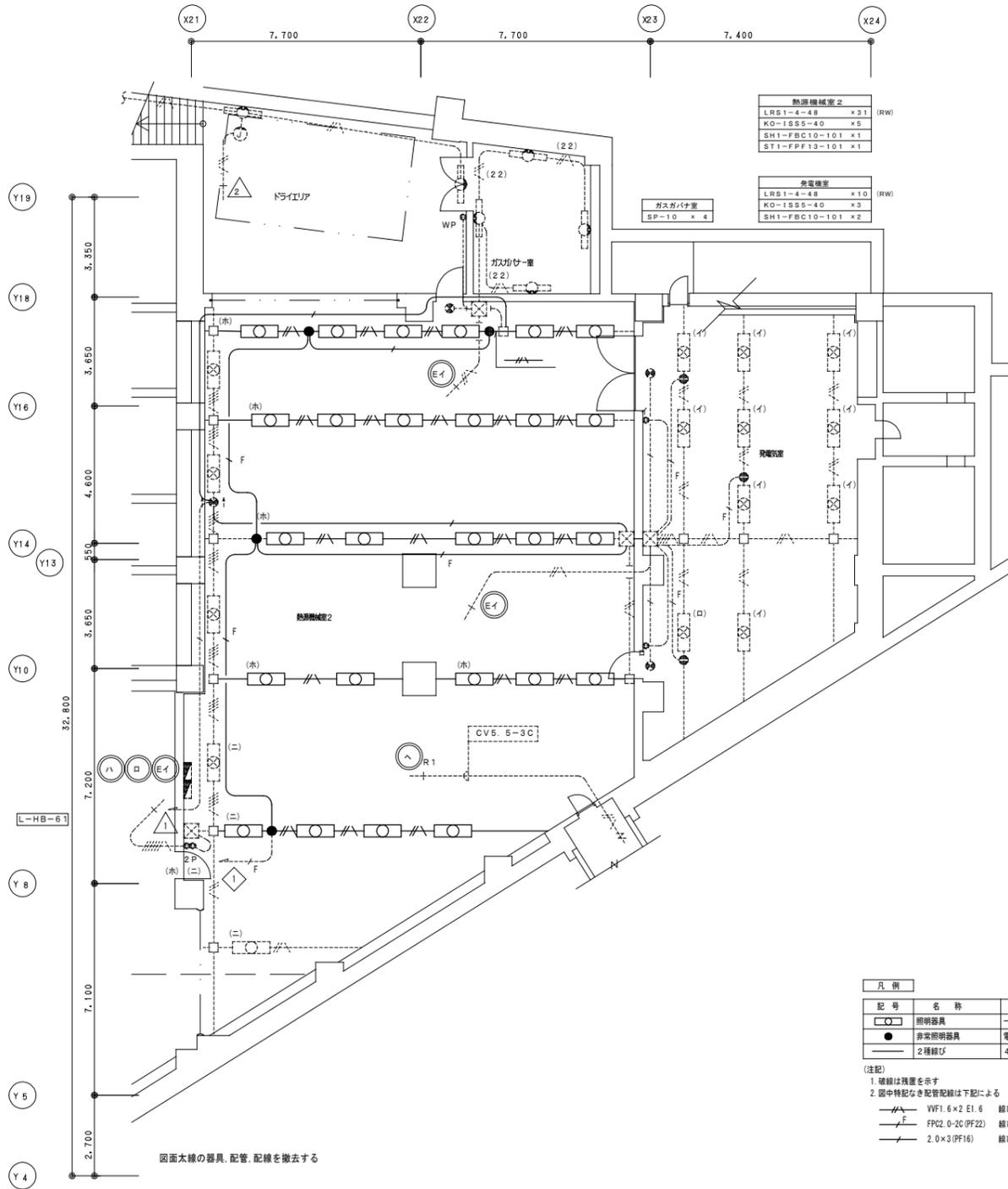


記号	名称	備考
①	新設発電機盤	
②	テイクオフ盤(GPT/FC)	既設
③	新設テイクオフ盤	

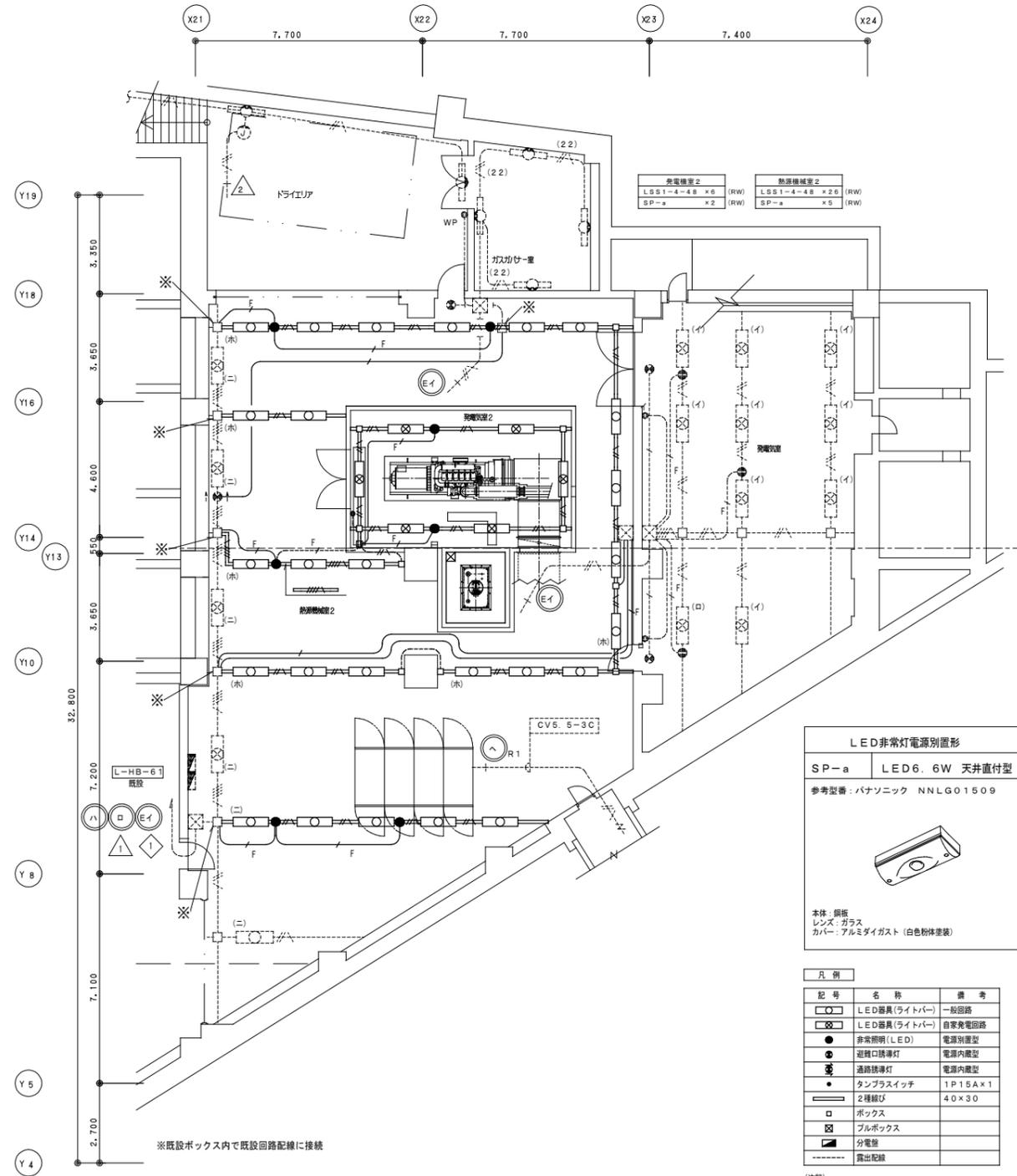
記号	配線	自	至	備考
①	6kV EM-CET150' (ラック)	③ 新設 高圧機盤	④ 新設 発電機盤	高圧用ラック上
②	6kV EM-CET150' (ダクト)	③ 新設 高圧機盤	④ 新設 発電機盤	高圧用ダクト内
a	EM-CEE2' -4C (ラック)	⑦ 既設 NW母線GPT盤	④ 新設 発電機盤	既設 信号線用ラック上

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				構内配電線路図 縮尺 1/800
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-12
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



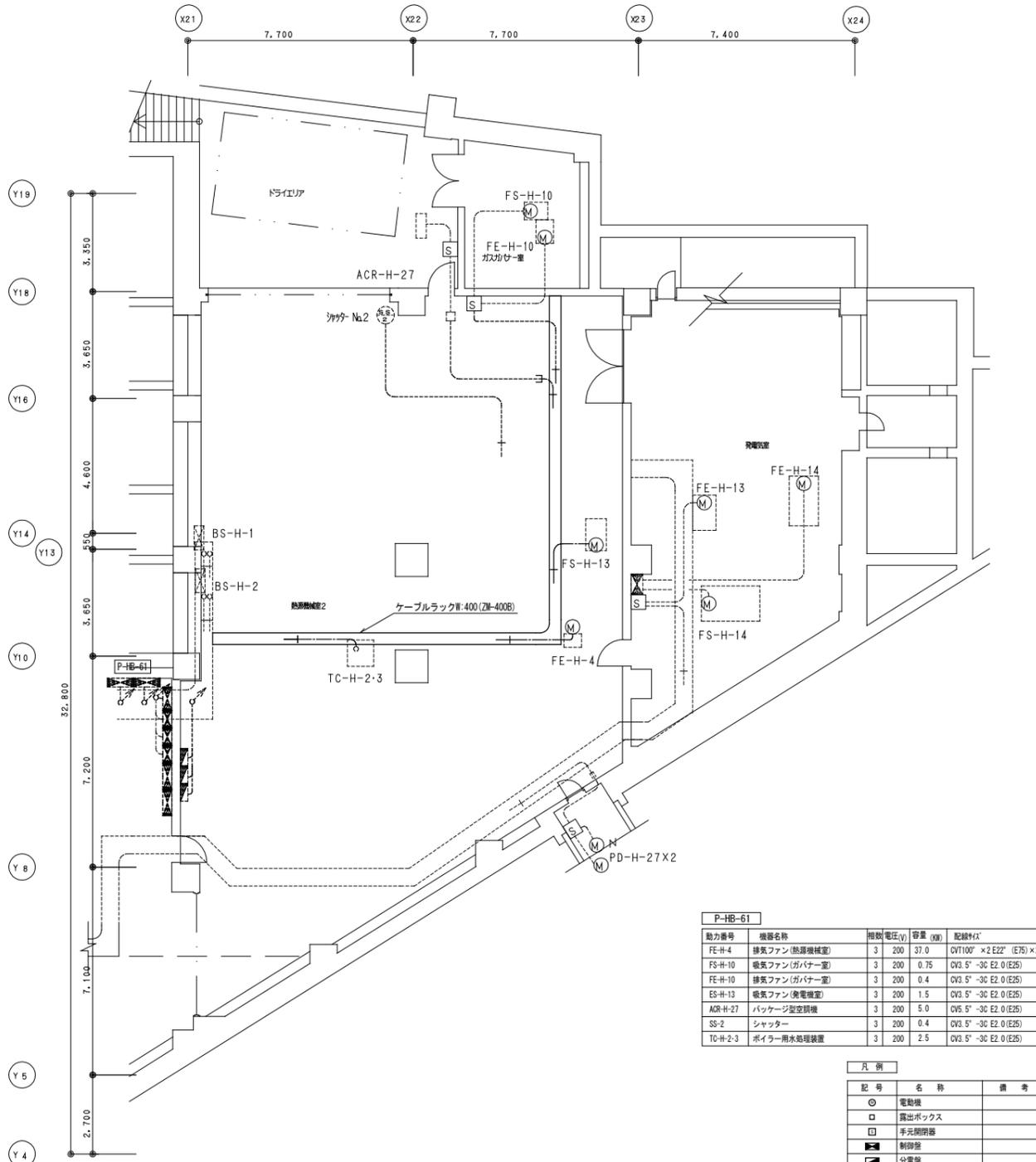
電灯設備(電灯分岐) B1階配線図(改修前) S=1/100



電灯設備(電灯分岐) B1階配線図(改修後) S=1/100

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事 カルチャー棟 電灯設備(電灯分岐) B1階配線図 縮尺 1/100
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				E-13
株式会社 総合設備計画				一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬

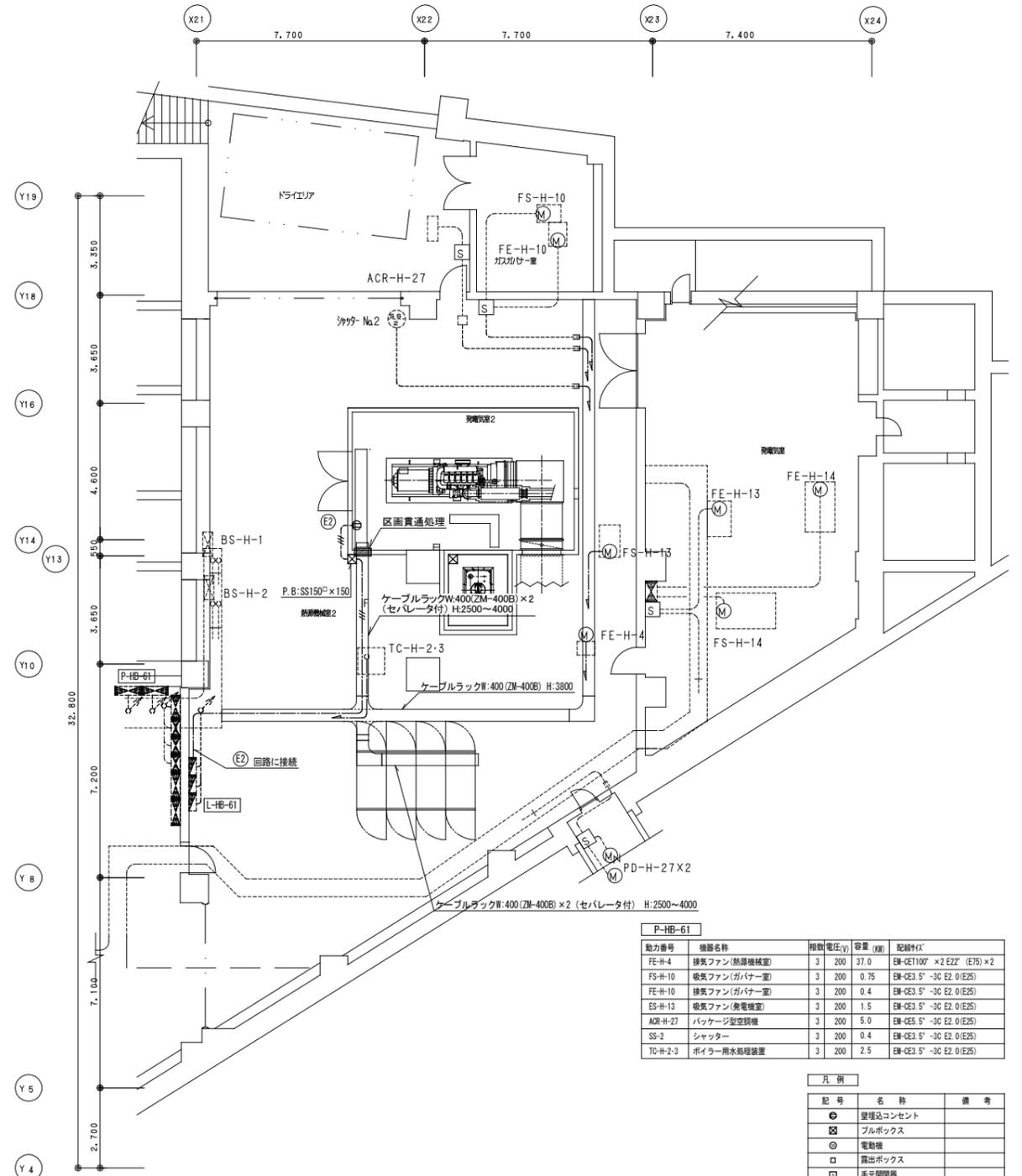


P-HB-61			
動力番号	機器名称	相数	電圧(V)
FE-H-4	排気ファン(熱源機室)	3	200
FS-H-10	排気ファン(ガバナー室)	3	200
FE-H-10	排気ファン(ガバナー室)	3	200
ES-H-13	排気ファン(発電機室)	3	200
ACR-H-27	パッケージ型空冷機	3	200
SS-2	シャッター	3	200
TC-H-2-3	ボイラー-用水処理装置	3	200

記号	名称	備考
⊙	電動機	
□	露出ボックス	
□	手元開閉器	
■	制御盤	
■	分電盤	
—	ケーブルラック	
---	ケーブルラック内配線	
----	露出配線	

(注記)
 1. 図中太線の配管、配線、ケーブルラックを撤去する
 2. 破線は残置を示す

動力設備(動力分岐) B1階配線図(改修前) S=1/100



P-HB-61			
動力番号	機器名称	相数	電圧(V)
FE-H-4	排気ファン(熱源機室)	3	200
FS-H-10	排気ファン(ガバナー室)	3	200
FE-H-10	排気ファン(ガバナー室)	3	200
ES-H-13	排気ファン(発電機室)	3	200
ACR-H-27	パッケージ型空冷機	3	200
SS-2	シャッター	3	200
TC-H-2-3	ボイラー-用水処理装置	3	200

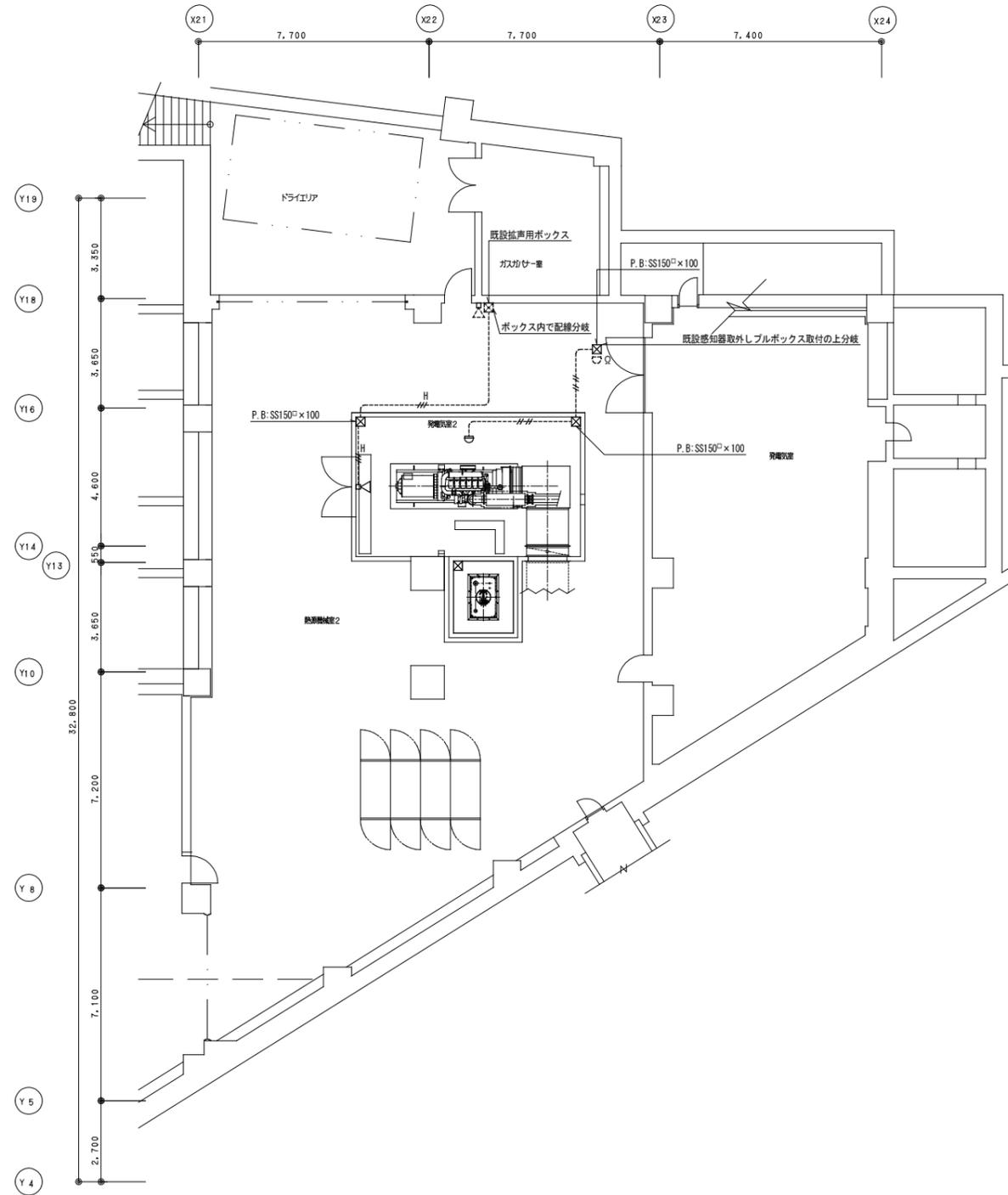
記号	名称	備考
⊙	電動機	
□	露出ボックス	
□	手元開閉器	
■	制御盤	
■	分電盤	
—	ケーブルラック	
---	ケーブルラック内配線	
----	露出配線	

(注記)
 1. 図中太線の配管、配線、ケーブルラックを新設する
 2. 破線は残置を示す
 3. 動力配線に関しては制御盤より負荷に接続後各種試験を行い正常に動作する事を確認すること
 4. 図中特記なき配管配線は下記による
 --- EM-E2 0×3(E25)
 --- EM-E2F 0×3C(ラック上)

電灯・動力設備(コンセント分岐・動力分岐) B1階配線図(改修後) S=1/100

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当
			国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
カルチャー棟 幹線・動力設備 B1階配線図			
縮尺 1/100			
独立行政法人 国立青少年教育振興機構			
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)			
株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬			



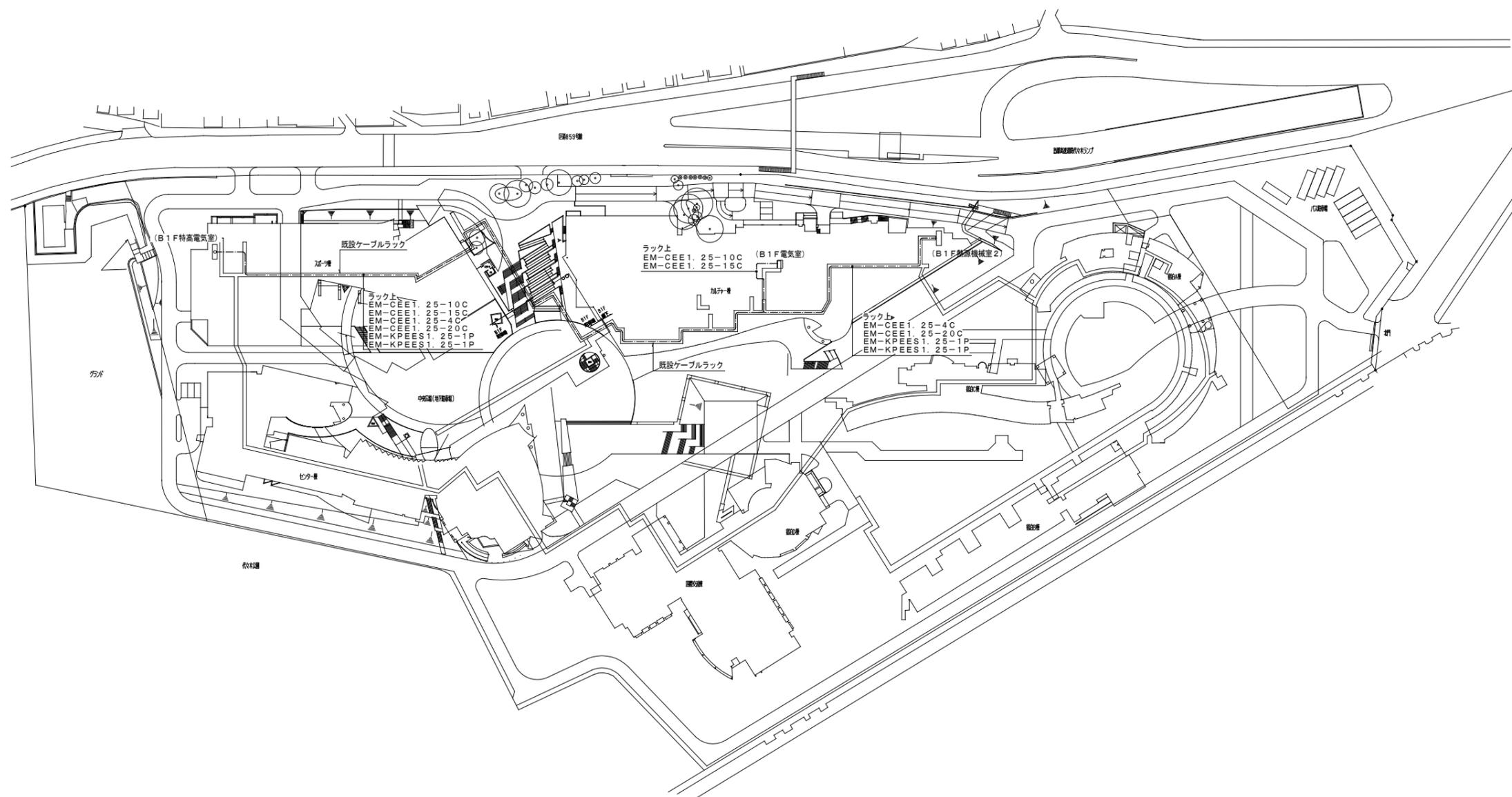
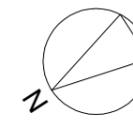
通信設備 B1階配線図 S=1/100

凡例		
記号	名称	備考
⊕	差動式スポット型感知器 2種露出型	
⊖	定温式スポット型感知器	
⊠	ホーンスピーカー	
----	露出配線	
⊠	プルボックス	

(注記)
 1. 破線は既設を示す
 2. 図中特記なき配管配線は下記による
 ---#--- EM-AE1.2-40 (E19)
 ---#--- EM-HP1.2-30 (E19)

特記事項

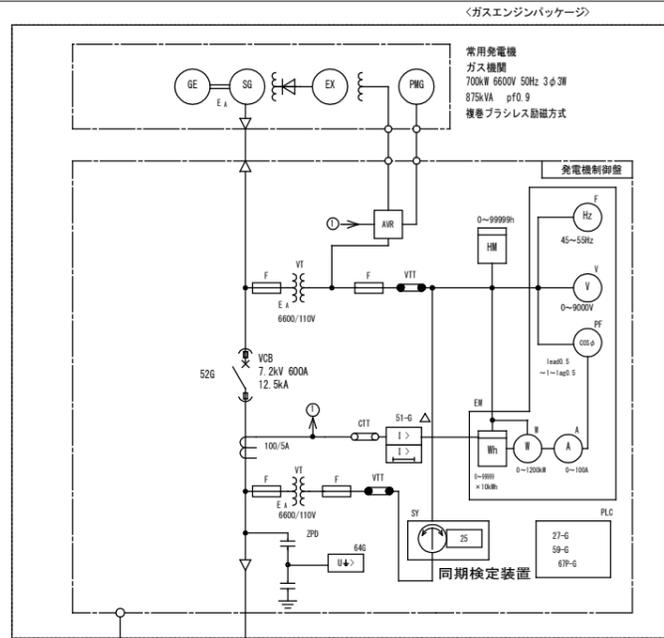
課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事			
				カルチャー棟 通信設備 B1階配線図			
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				縮尺	1/100		
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画	一級建築士事務所(都) 第12961号	一級建築士第347435号	小松敬
							E-15



撤去注記

1. 図中の機器及び配管配線を撤去する。
2. 打ち込み配管は残置する。

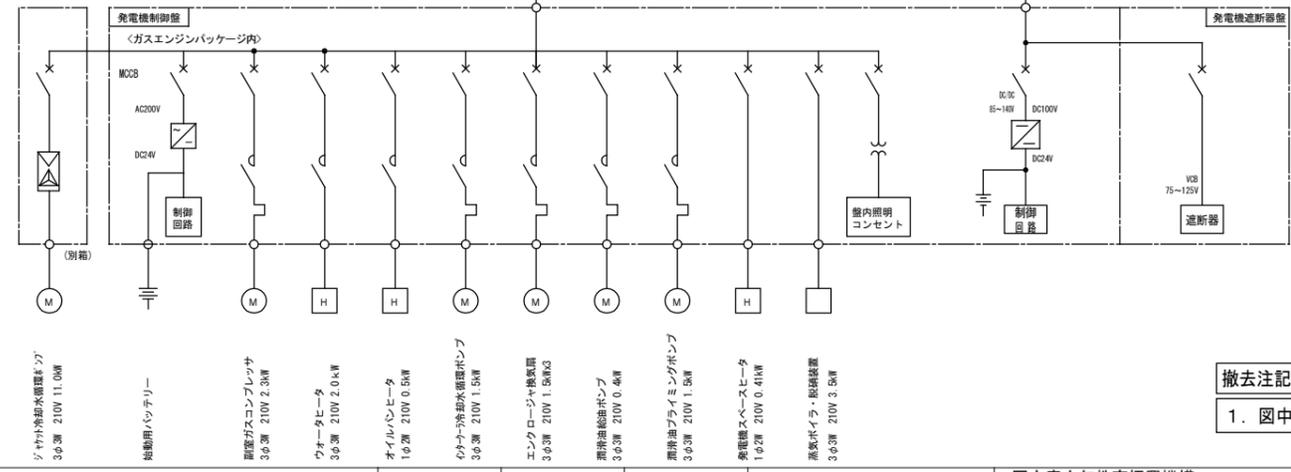
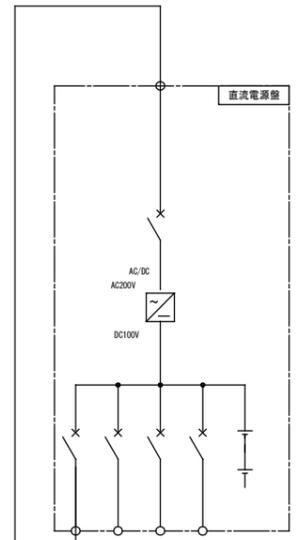
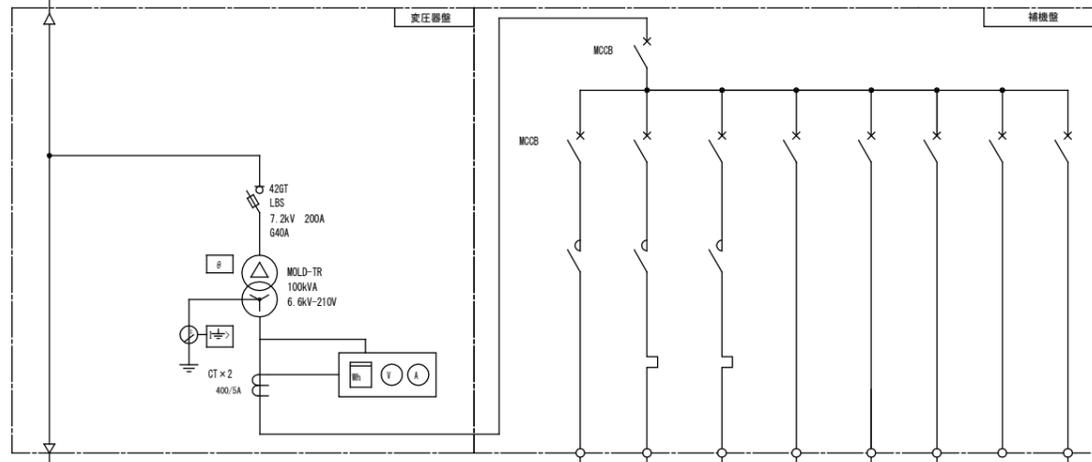
特記事項	課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
					CGS 構内配電線路図(撤去)
					縮尺 1/1000
	独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-16
	業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



EM-CEE1.25sq-4C
 EM-CEE1.25sq-20C
 EM-KPEE1.25sq-2C×2

VCB 52CG状態
 VCB系統側状態・リレー動作
 受電電力、受電電力量

特高NWプロテクタ壁取合
 (スポーツ棟B1F特高電気室)



撤去注記
 1. 図中の機器及び配管配線を撤去する。

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				加好+棟 CGS 単線結線図(撤去)
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-17
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬

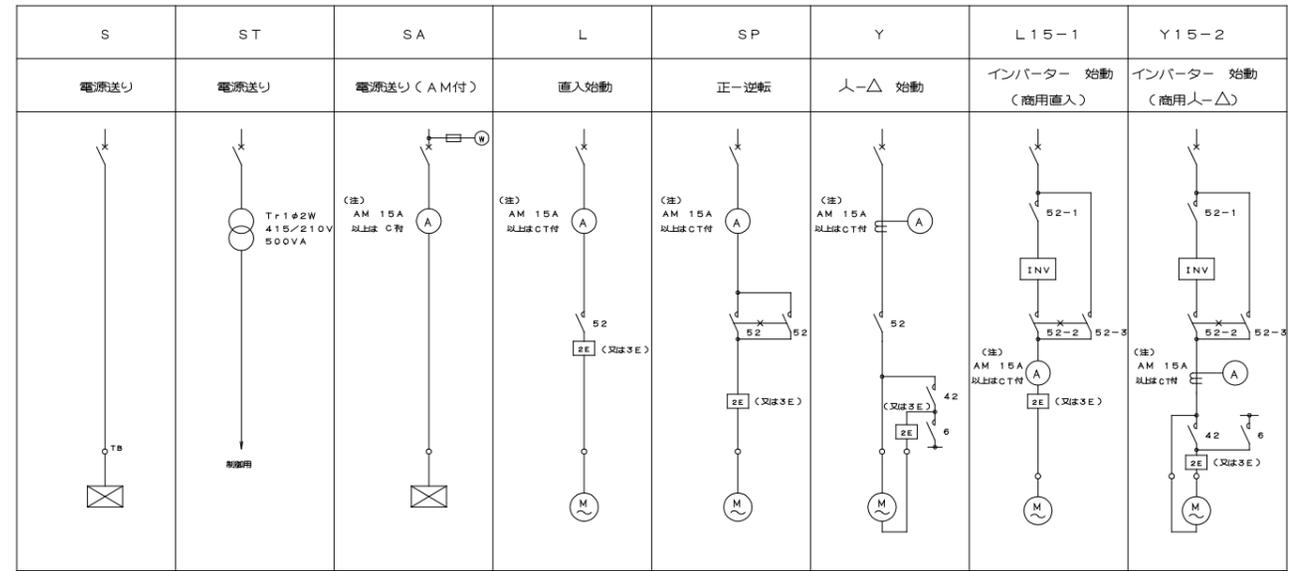
(動力負荷表)

機名 及び 幹線番号	主幹線 及び 結果	機番	機名	AC or GC	電圧 (V)	容量 (kW)	主 回路 方式	操 作 方式	操 作 形	配線用遮断器 M:MCCB E:E LCB	中央監視盤			火災 信号 により	連 動 → インターロック →
											運転	停止	警報		
単位電力 RA-H-4 キャビネット 形式: 扉内・自立 CGS特機並り CVT100 ⁺	AC 3φ3W 210V MCB 3P225/200A		RA-H-4 吸収式冷凍機	AC	200	4.6	SA	B.1	E 50/40	○	○	○			
			PC-RHA-4 冷水一次ポンプ	#	#	3.7	L 4-1	B.1	E 50/40	○	○	○			
			PH-HEH-4 温水一次ポンプ	#	#	5.5	L 4-1	B.1	E 50/50	○	○	○			
			PCD-H-4 冷却水ポンプ	#	#	11.0	Y 4-1	B.1	E 100/75	○	○	○			
			PH-CGS-1 排熱温水ポンプ	#	#	11.0	Y 4-1	B.1	E 100/75	○	○	○			
			PH-CGS-2 予熱温水ポンプ	#	#	1.5	L 4-1	B.1	E 50/20	○	○	○			
			CT-RAH-4 冷却ファン	#	#	3.7	L 4-1	B.1	E 50/40	○	○	○		サーモ+制御(PCD-RHA-4)	
			CF-RAH-4 兼注装置	#	#	1φ200	0.011	S	B	E 50/15	○				
				兼注装置	#	#	1φ200	S		M 50/10					

(注記)

特記に記載なき事項は、「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)」「(社団法人公共建築協会 最新版)」に準拠とする。

(主回路方式)



(操作制御方式)

「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)」「(社団法人公共建築協会 最新版)、電力-制御盤の項目に準拠とする。

(操作制御スイッチ)

「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)」「(社団法人公共建築協会 最新版)、電力-制御盤の項目に準拠とする。

(特記)

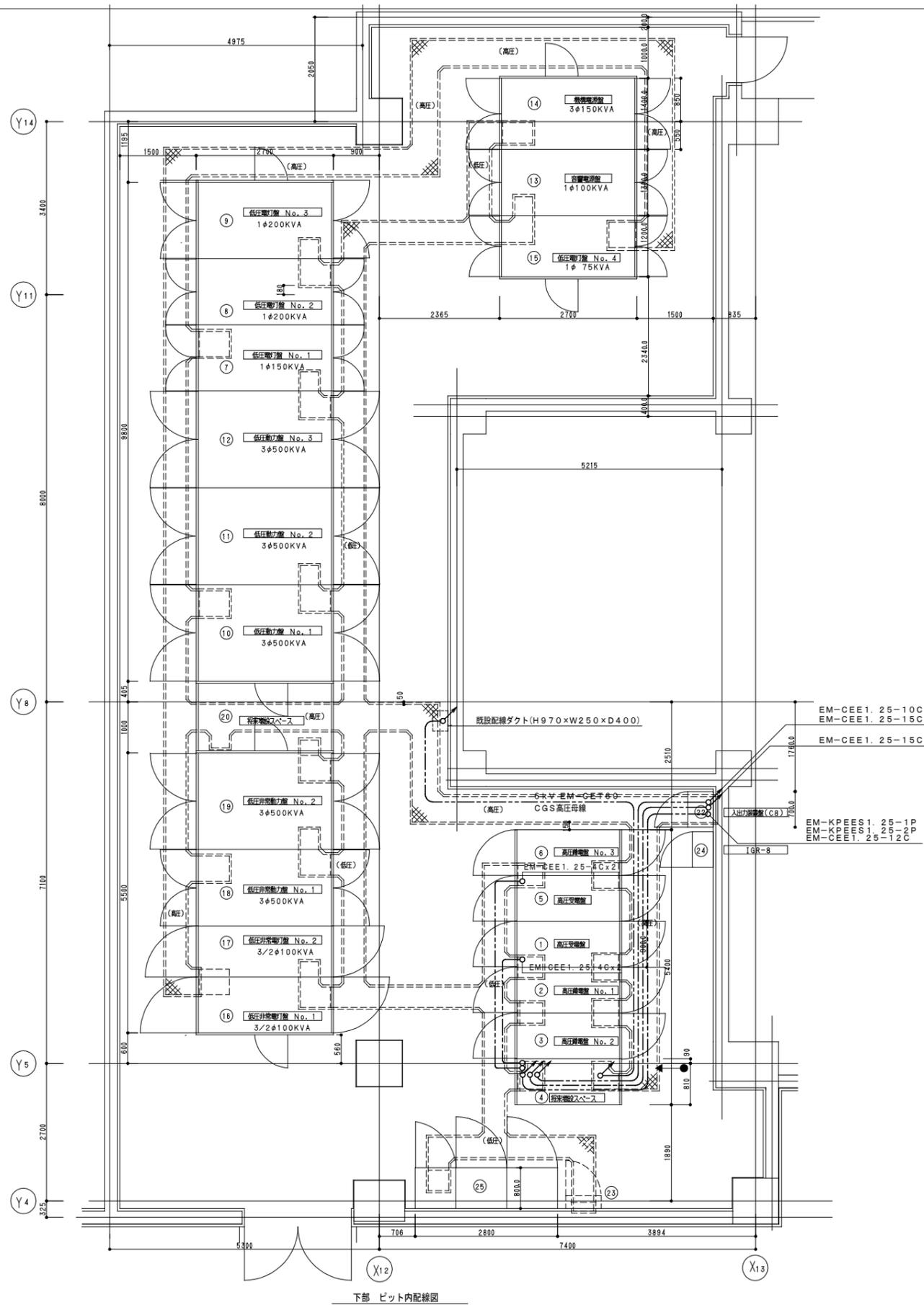
- インバーターを内蔵する制御盤には冷却ファンを設け、温度調節器による自動運転を行う。
- インバーター運転に使用する過負荷保護継電器は熱動形とする。
- 分岐MCCB、ELCBは、警報接点付とする。
- 雨水ポンプ等、水中ポンプ用の保護継電器は3Eを使用する。
- 表示灯はLEDとする。
- 積算電力量計は、メリス発信機付、検定付とする。

撤去注記

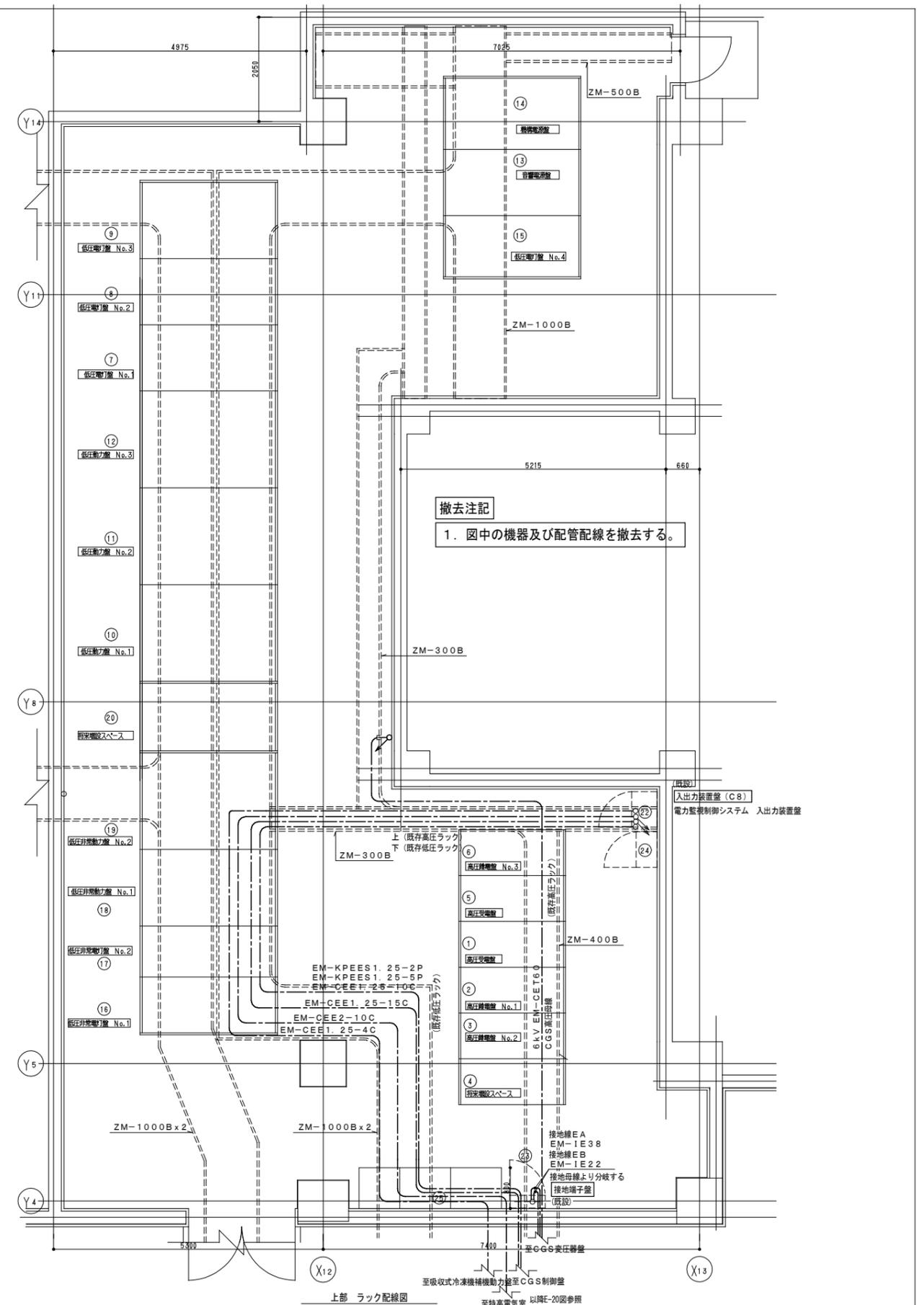
- 図中の機器を撤去する。

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				加好+棟 制御盤負荷表(撤去)
				縮尺 N.S
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-18
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



下部 ビット内配線図

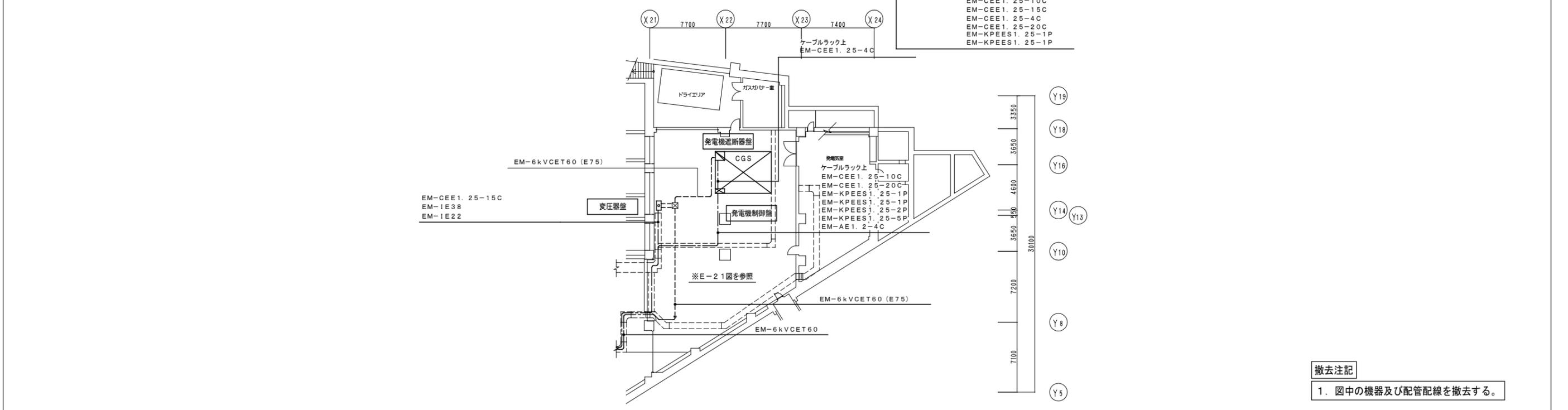
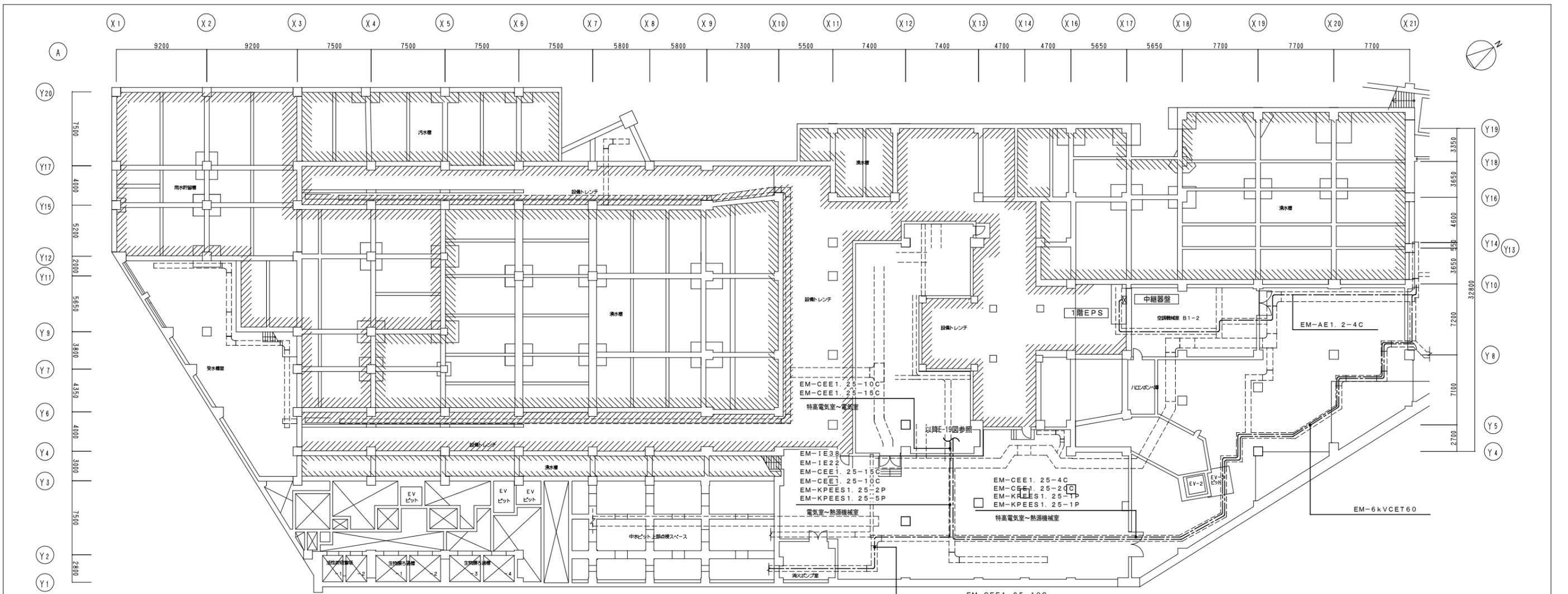


上部 ラック配線図

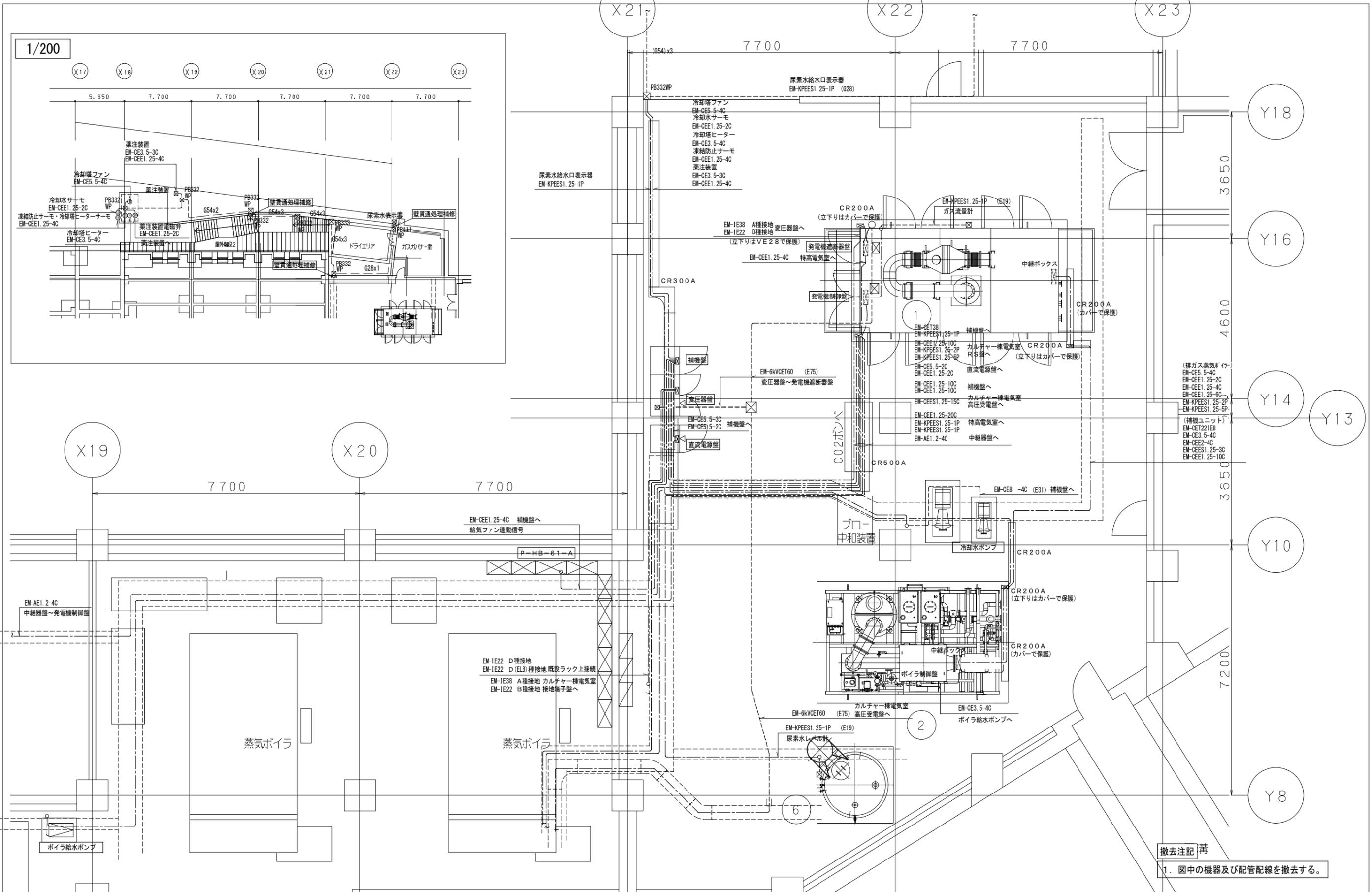
撤去注記
1. 図中の機器及び配管配線を撤去する。

特記事項

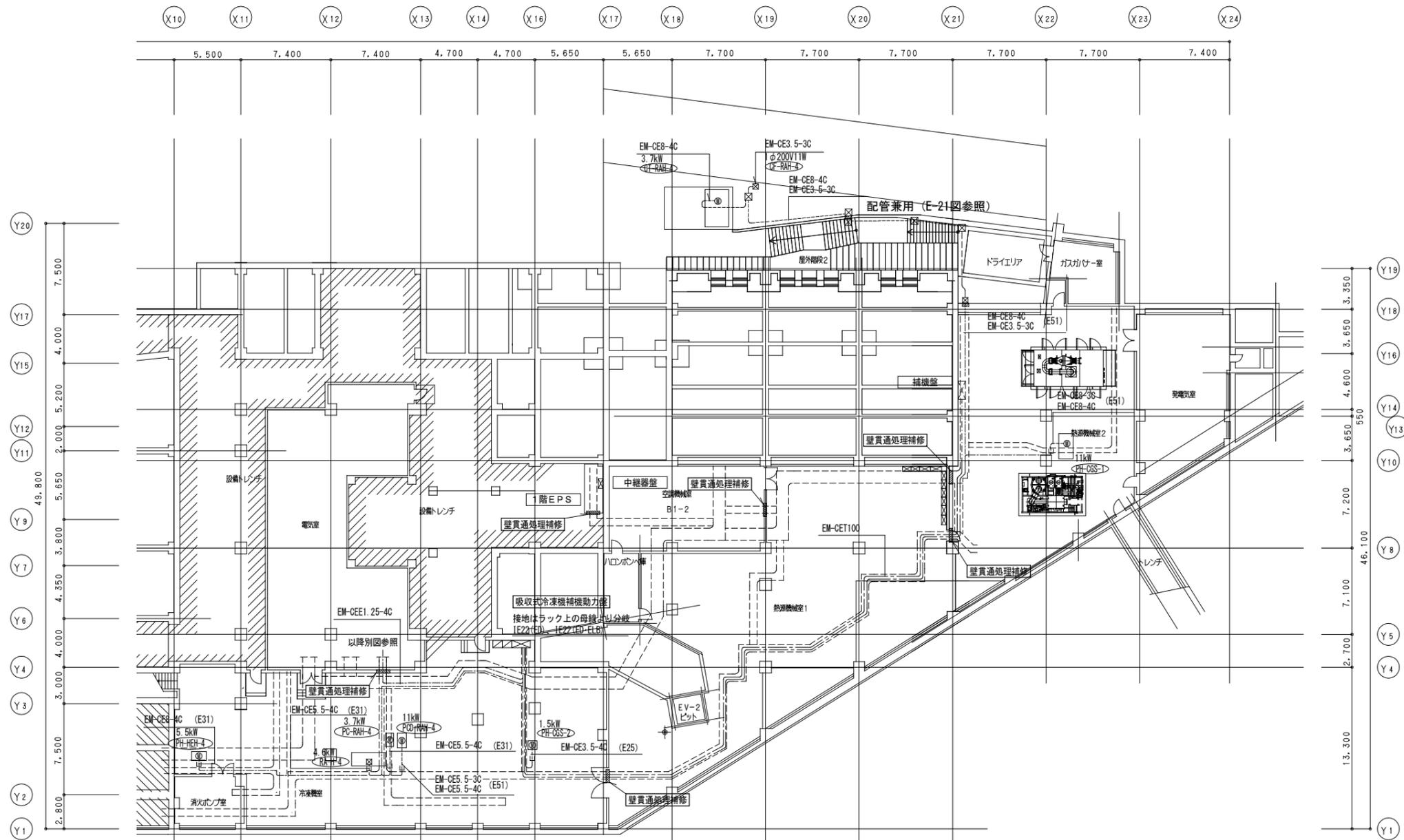
課長	課長補佐	係長	担当
			国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
			加好+様 CGS 電気室配線図(撤去)
			縮尺 1/50
独立行政法人 国立青少年教育振興機構			
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)			
			株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所 (都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敏



特記事項	課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
	独立行政法人 国立青少年教育振興機構				加好+楼 CGS幹線・電力運係制御設備 B1階配線図(撤去)
	縮尺 1/200				E-20
	業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



特記事項	課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
	独立行政法人 国立青少年教育振興機構				加好一様 GCS補機動力設備 B1階配線図(撤去) 縮尺 1/50
業務名	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				E-21
					株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬



撤去注記

1. 図中の機器及び配管配線を撤去する。

特記事項

課長	課長補佐	係長	担当	国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター自家発電設備改修工事
				加好々楼 空調動力設備 B1階配線図(撤去)
				縮尺 1/200
独立行政法人 国立青少年教育振興機構				E-22
業務名 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟他機能改善整備設計業務(設備)				株式会社 総合設備計画 一級建築士事務所(都) 第12961号 一級建築士第347435号 小松敬